

中央区ごみ排出実態調査 報告書

令和2年3月



中 央 区

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目と調査期間、調査のフロー	1
第2章 中央区の地域特性の解析	3
1. 解析の目的と方法	3
2. 解析結果	4
第3章 家庭系ごみ排出原単位調査	7
1. 調査の目的と方法	7
2. 調査結果	7
第4章 家庭系ごみ組成分析調査	10
1. 調査の目的と方法	10
2. 調査結果	12
第5章 区民アンケート調査	24
1. 調査概要	24
2. 調査結果	25
第6章 事業所アンケート調査	32
1. 調査概要	32
2. 調査結果	33
第7章 中央区のごみ・資源量の推計	40
1. 家庭系ごみ・資源の推計量	40
2. 事業系ごみ・資源の推計量	42
3. 中央区のごみ・資源の推計量（全体）	45

数表については、端数処理のため、合計と内訳が一致しない場合がある。

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区内の家庭や事業所等から排出されたごみについて、ごみ量及び性状等の調査を行うとともに、ごみの減量・リサイクルに関する区民・事業者の意識、取り組み状況等を把握するものである。

得られたデータを整理・分析することによって、ごみの減量化、資源物の再生利用等の推進を図る上での基礎資料として、中央区一般廃棄物処理基本計画の見直し及び循環型清掃リサイクル事業の推進に向けた各種施策立案に活用するものである。

2. 調査項目と調査期間、調査のフロー

(1) 中央区の地域特性の解析

世帯構成別の人口や業種別の従業者数などの統計データを用いて中央区の地域特性を解析し、複数のグループにまとめるとともに、中央区の世帯等の特性をできるだけ網羅するよう調査対象地域を選定した。

○解析期間：平成31年4月～令和元年5月

(2) 家庭系ごみ排出原単位調査

区民1人1日あたりの燃やすごみ、燃やさないごみ、プラスチック製容器包装及び資源（びん、缶、ペットボトル、調理器具等）の排出量を調査した。

○調査期間：令和元年6月10日（月）～15日（土）、6月17日（月）～22日（土）、6月24日（月）の計13日間

(3) 家庭系ごみ組成分析調査

家庭から排出される燃やすごみ、燃やさないごみ、プラスチック製容器包装、資源の組成を調査した。

○調査期間：令和元年6月25日（火）～6月29日（土）、7月1日（月）～6日（土）、7月8日（月）～9日（火）の計13日間。

(4) 区民アンケート調査

区民の不用物の処理方法やごみ処理・リサイクルに対する意識等を調査した。令和元年6月11日に調査票を発送し、令和元年8月31日到着分までを集計対象とした。

(5) 事業所アンケート調査

事業系の不用物の処理方法や処理量、ごみ処理・リサイクルに対する意識等を調査した。

令和元年7月23日に調査票を発送し、令和元年10月31日到着分までを集計対象とした。

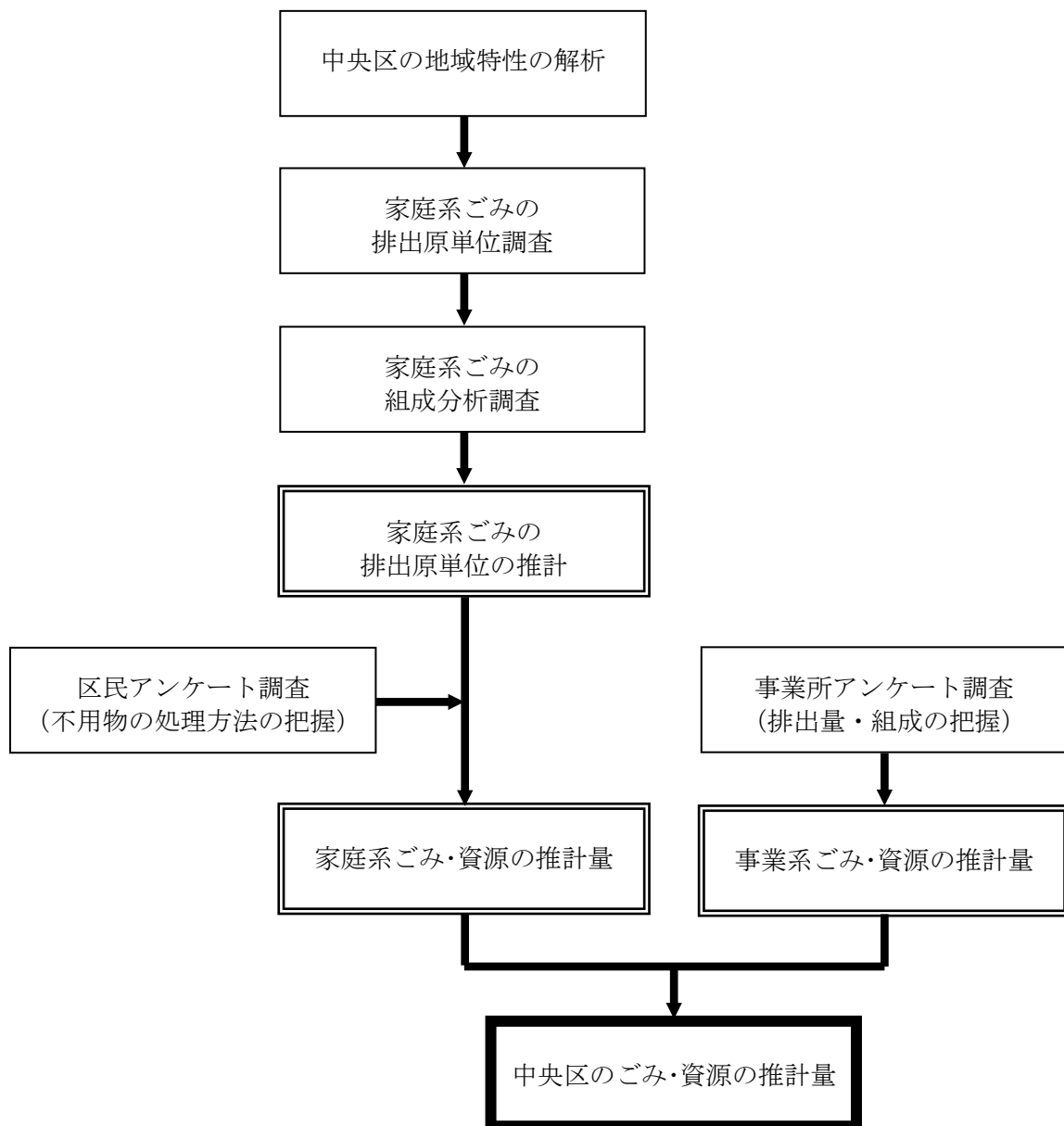
(6) 中央区のごみ・資源量の推計

(1)～(5)の結果を踏まえ、平成31(令和元)年度における中央区のごみ・資源の量を推計した。

(7) 調査のフロー

本調査のフローは図1-1に示すとおりである。

図1-1 調査のフロー



第2章 中央区の地域特性の解析

1. 解析の目的と方法

本調査の調査対象地域を選定するに当たり、世帯構成別の人口や住宅形態などの統計データを用いて中央区の地域特性を解析し、その解析結果に基づき中央区をいくつかのグループにまとめ、これらのグループごとに、中央区の世帯等の特性をできるだけ網羅するよう調査対象地区を選定し、調査を行うこととした。これは、家庭ごみが世帯構成や住宅形態によって排出量や組成に大きな差異が生じることと、さらに、同じ世帯人数や住宅形態であっても、その周辺の地域環境や事業所の状況などによって異なった傾向を示すことを考慮したものである。

地域特性の解析には、下記の二つの分析方法を用いた。

(1) 主成分分析

単身世帯、一戸建て住宅、高齢者世帯など、複数ある変数をそれぞれの変数のばらつき
の傾向からお互いに関連性を持った変数をまとめて、独立した新たな変数にまとめる分析
方法。

(2) クラスタ分析

多数の町丁目が集合して成り立っている中央区のように、異なる性質（地域特性）のもの
の同士が混ざり合っている状態の中から、互いに類似したものを集め、その対象をある一
定の性質（地域特性）のもとに分類する分析方法。

解析に使用した変数を表 2-1 に示す。

表 2-1 解析に使用する変数

出典	項目	変数
平成 27 年国勢調査	世帯特性	人口密度
		平均世帯数
		単身世帯比率
		65 歳以上の親族がいる世帯比率
	住宅形態	一戸建（世帯数）比
		1～5 階建共同住宅（世帯数）比
6 階建以上共同住宅（世帯数）比		
平成 28 年経済センサス （活動調査）	事業所特性	事業所数（単位面積あたり）
		従業者数（単位面積あたり）
	業種	建設事業所数（単位面積あたり）
		製造業事業所数（単位面積あたり）
		運輸業事業所数（単位面積あたり）
		卸売・小売業事業所数（単位面積あたり）
		飲食店、宿泊業事業所数（単位面積あたり）
		サービス業事業所数*（単位面積あたり）
	従業者数規模	0～4 事業所数（単位面積あたり）
		5～29 事業所数（単位面積あたり）
30～事業所数（単位面積あたり）		

*サービス業事業所数：「生活関連サービス業、娯楽業」及び「サービス業（他に分類されないもの）」の和

2. 解析結果

(1) 主成分分析の結果

主成分分析の結果を表 2-2 に示す。分析の結果、4 個の主成分に集約された。

表 2-2 主成分分析の結果 (因子負荷量)

項目	変数	主成分 1	主成分 2	主成分 3	主成分 4
世帯特性	人口密度	-0.3628	0.5250	0.5459	0.1523
	平均世帯人数	-0.3540	-0.1152	0.6937	0.3552
	単身世帯比率	0.5656	0.2529	-0.0433	0.1539
	65 歳以上の親族がいる世帯比率	0.1134	-0.6800	0.5118	0.1554
事業所特性	一戸建 (世帯数) 比	0.5430	-0.6843	0.2805	-0.0605
	1～5 階建共同住宅比	0.1657	-0.3530	0.3289	-0.4530
	6 階建以上共同住宅比	-0.2303	0.7548	0.1050	0.4388
業種	事業所数(単位面積あたり)	0.9760	0.0494	0.0351	0.1246
	従業者数(単位面積あたり)	0.7970	-0.1213	-0.2946	0.0770
従業者数	建設業事業所数(単位面積あたり)	0.6977	0.3983	0.2700	-0.2997
	製造業事業所数(単位面積あたり)	0.5730	0.5273	0.2469	-0.3197
	運輸業事業所数(単位面積あたり)	0.6528	0.2370	0.2109	-0.3431
	卸売・小売業事業所数(単位面積あたり)	0.8288	0.1601	0.0182	0.0511
	飲食店、宿泊業事業所数(単位面積あたり)	0.6420	-0.3053	-0.1131	0.4880
	サービス業事業所数(単位面積あたり)	0.9139	-0.0324	0.0291	0.1422
規模	0～4 事業所数(単位面積あたり)	0.9046	0.1633	0.1151	0.1253
	5～29 事業所数(単位面積あたり)	0.9708	-0.0503	-0.0008	0.1502
	30～事業所数(単位面積あたり)	0.8697	-0.0054	-0.1288	-0.0300
主成分の主な特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・人口密度低い ・世帯人数少ない ・一戸建て多い ・1～5 階共同住宅やや多い ・6 階以上共同住宅やや少ない ・事業所数多い ・従業者数多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口密度高い ・世帯人数や少ない ・一戸建て少ない ・1～5 階共同住宅少ない ・6 階以上共同住宅多い ・事業所数平均並み ・従業者数やや少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口密度高い ・世帯人数多い ・一戸建てやや多い ・1～5 階共同住宅多い ・6 階以上共同住宅やや多い ・事業所数平均並み ・従業者数やや少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口密度やや高い ・世帯人数多い ・一戸建て平均並み ・1～5 階共同住宅少ない ・6 階以上共同住宅多い ・事業所数やや多い ・従業者数平均並み 	

因子負荷量の数値は、数字のフォントが正体の値は正の影響、斜体の値は負の影響を示している。

■ : -0.6999～0、□ : 0.0001～0.6999、■ : 0.7 以上

(2) クラスタ分析の結果

クラスタ分析の結果を表 2-3～5、結果をマップ化した地図を図 2-1 に示す。分析の結果、5 つのクラスタに分類できた。

表 2-3 主成分分析とクラスタの要因関係

クラスタNo.	主成分 1	主成分 2	主成分 3	主成分 4	該当町丁目の数
クラスタ1	2.476	-2.699	0.895	-1.087	10
クラスタ2	3.665	-1.387	-0.994	1.442	10
クラスタ3	2.307	1.445	0.479	-0.161	26
クラスタ4	-3.155	-0.107	0.380	0.144	35
クラスタ5	-0.645	0.413	-1.456	-0.258	17

因子負荷量の数値は、数字のフォントが正体の値は正の影響、斜体の値は負の影響を示している。

■ : -2.000 以下、□ : -1.999～1.999、■ : 2.0 以上

表 2-4 クラスター間平均値

項目	変数	クラスター 1	クラスター 2	クラスター 3	クラスター 4	クラスター 5
世帯特性	人口密度	1,389.675	2,141.903	18,412.637	21,058.655	9,672.189
	平均世帯人数	1.670	1.432	1.581	1.880	1.307
	単身世帯比率	0.636	0.701	0.640	0.480	0.613
	65歳以上の親族がいる世帯比率	0.409	0.272	0.169	0.220	0.108
事業所特性	一戸建(世帯数)比	0.469	0.302	0.132	0.073	0.066
	1～5階建共同住宅比	0.120	0.016	0.024	0.031	0.019
	6階建以上共同住宅比	0.316	0.573	0.811	0.806	0.755
業種	事業所数(単位面積あたり)	6,381.770	9,017.167	7,482.234	1,292.577	3,631.571
	従業者数(単位面積あたり)	156,349.992	191,323.028	113,995.412	24,193.570	104,468.079
従業者数	建設業事業所数(単位面積あたり)	191.389	129.361	257.665	57.410	103.019
	製造業事業所数(単位面積あたり)	205.206	162.431	436.891	86.679	150.882
	運輸業事業所数(単位面積あたり)	169.345	103.431	177.523	49.634	78.173
	卸売・小売業事業所数(単位面積あたり)	1,769.980	2,233.194	2,365.632	379.876	1,334.785
	飲食店、宿泊業事業所数(単位面積あたり)	867.381	2,114.361	747.853	168.059	399.846
	サービス業事業所数(単位面積あたり)	818.730	1,183.583	839.799	143.779	407.571
規模	0～4 事業所数(単位面積あたり)	2,385.429	3,626.486	3,565.421	633.201	1,401.749
	5～29 事業所数(単位面積あたり)	3,102.028	4,370.583	3,137.724	520.558	1,652.098
	30～事業所数(単位面積あたり)	831.202	931.972	722.770	130.026	543.762
					最大値	最小値

表 2-5 クラスター分析による中央区の町丁目の分類

クラスター番号	人口 (人口密度)	主な特性	町丁目		
			京橋地域	日本橋地域	月島地域
1	751 (1,390)	<ul style="list-style-type: none"> 人口が少ない。 戸建世帯の割合が高い。 65歳以上の親族がいる世帯の割合が高い。 1～5階建共同住宅の割合が高い。 6階建以上共同住宅の割合が低い。 	京橋1丁目、京橋3丁目、八丁堀1丁目	八重洲1丁目、日本橋本石町3丁目、日本橋本石町4丁目、日本橋室町1丁目、日本橋室町4丁目、日本橋2丁目、日本橋茅場町1丁目	無し
2	2,181 (2,142)	<ul style="list-style-type: none"> 人口が少ない。 単身世帯の割合が高い。 1～5階建共同住宅の割合が低い。 事業所数が多い。 単位面積当りの従業者数が多い。 飲食店・サービス業が多い。 	八重洲2丁目、京橋2丁目、銀座2丁目、銀座3丁目、銀座4丁目、銀座5丁目、銀座6丁目、銀座7丁目、銀座8丁目	日本橋3丁目	無し
3	27,349 (18,413)	<ul style="list-style-type: none"> 人口が多い。 6階建以上共同住宅の割合が高い。 事業所数がやや多い。 建設、製造、運輸、卸売・小売業が多い。 	銀座1丁目、新富1丁目、新富2丁目、入船1丁目、入船2丁目、入船3丁目、築地2丁目、八丁堀2丁目、八丁堀3丁目、八丁堀4丁目	日本橋本町1丁目、日本橋本町3丁目、日本橋本町4丁目、日本橋小舟町、日本橋小伝馬町、日本橋大伝馬町、日本橋堀留町1丁目、日本橋人形町1丁目、日本橋人形町2丁目、日本橋人形町3丁目、日本橋蛸殻町1丁目、日本橋馬喰町1丁目、日本橋横山町、東日本橋3丁目、日本橋茅場町2丁目、日本橋茅場町3丁目	無し
4	97,249 (21,059)	<ul style="list-style-type: none"> 人口が特に多い。 世帯人数が多い。 単身世帯の割合が低い。 事業所が少ない。 単位面積当りの従業者数が少ない。 	湊1丁目、湊2丁目、湊3丁目、明石町、築地6丁目、築地7丁目、浜離宮庭園、新川2丁目	日本橋室町3丁目、日本橋蛸殻町2丁目、日本橋箱崎町、東日本橋1丁目、日本橋浜町1丁目、日本橋浜町2丁目、日本橋浜町3丁目、日本橋中洲	佃1丁目、佃2丁目、佃3丁目、月島1丁目、月島2丁目、月島3丁目、月島4丁目、勝どき1丁目、勝どき2丁目、勝どき3丁目、勝どき4丁目、勝どき5丁目、勝どき6丁目、豊海町、晴海1丁目、晴海2丁目、晴海3丁目、晴海4丁目、晴海5丁目
5	13,648 (9,672)	<ul style="list-style-type: none"> 人口がやや少ない。 世帯人数が少ない。 65歳以上の親族がいる世帯の割合が低い。 戸建て世帯の割合が低い。 事業所がやや少ない。 	築地1丁目、築地3丁目、築地4丁目、築地5丁目、新川1丁目	日本橋本石町1丁目、日本橋本石町2丁目、日本橋室町2丁目、日本橋堀留町2丁目、日本橋富沢町、日本橋小網町、日本橋馬喰町2丁目、東日本橋2丁目、日本橋久松町、日本橋1丁目、日本橋兜町	無し

第3章 家庭系ごみ排出原単位調査

1. 調査の目的と方法

区民1人が1日に排出するごみ・資源の量を調査するため、調査員をごみ集積所に配置し、区民から世帯人数と何日分のごみ・資源かを聞き取り、その重量を測定した。燃やすごみ、燃やさないごみ、プラスチック製容器包装、資源を対象とした。調査対象地域を表3-1に示す。

表3-1 調査対象地域

調査対象地域	クラス	住居区分		収集	
		戸建	集合		
日本橋	日本橋人形町2丁目	3	○	○	集積所・戸別
	日本橋蛸殻町1丁目	3	○		集積所・戸別
	日本橋浜町2丁目	4	○		戸別
	日本橋浜町3丁目	4	○		戸別
京橋	新川1丁目	5		○	集積所
	新川2丁目	4	○	○	集積所
月島	月島3丁目	4	○		集積所
	月島4丁目	4	○		集積所
	佃1丁目	4	○		集積所
	佃2丁目	4		○	集積所
	勝どき5丁目	4		○	集積所
	勝どき6丁目	4		○	集積所
	晴海3丁目	4		○	集積所

2. 調査結果

(1) サンプル数

調査に用いた属性別サンプル数を表3-2に示す。

表3-2 世帯人数別サンプル数

属性（世帯人数）		1人 (若年層)	1人 (若年層以外)	2人	3人	4人以上	合計
ごみ・資源の種類							
燃やすごみ		22	138	166	89	74	489
燃やさないごみ		0	9	26	13	11	59
プラスチック製容器包装		4	23	45	21	19	112
資源	紙類	0	4	9	9	7	29
	ペットボトル	3	22	29	18	18	90
	びん	1	8	13	10	6	38
	缶	2	12	27	15	10	66
	調理器具	0	0	1	0	0	1
	資源合計		6	46	79	52	41

(2) 排出原単位

調査結果に基づいて推計した区民1人が1日に出すごみ・資源の量を表3-3に示す。燃やすごみ 313.3g/人日、燃やさないごみ 26.4g/人日、プラスチック製容器包装 31.5g/人日、資源 252.4g/人日である。

表 3-3 排出原単位調査結果

単位 [g/人日]

属性 (世帯人数)		排出原単位 a	人口割合[%] b	人口割合を乗じた排出原単位 a×b	合計		
燃やすごみ	1人世帯(若年層)	252.0	5.8%	14.6	313.3		
	1人世帯(若年層以外)	345.9	25.1%	86.7			
	2人世帯	342.4	27.1%	92.8			
	3人世帯	325.4	21.2%	68.9			
	4人以上世帯	241.3	20.9%	50.4			
燃やさないごみ	1人世帯(若年層)	30.2	5.8%	1.8	26.4		
	1人世帯(若年層以外)	30.2	25.1%	7.6			
	2人世帯	29.5	27.1%	8.0			
	3人世帯	24.6	21.2%	5.2			
	4人以上世帯	18.5	20.9%	3.9			
プラスチック製容器包装	1人世帯(若年層)	23.1	5.8%	1.3	31.5		
	1人世帯(若年層以外)	46.7	25.1%	11.7			
	2人世帯	32.8	27.1%	8.9			
	3人世帯	23.2	21.2%	4.9			
	4人以上世帯	22.2	20.9%	4.6			
資源	紙類	1人世帯(若年層)	227.9	5.8%	13.2	135.0	
		1人世帯(若年層以外)	227.9	25.1%	57.1		
		2人世帯	97.9	27.1%	26.5		
		3人世帯	125.0	21.2%	26.5		
		4人以上世帯	56.1	20.9%	11.7		
	ペットボトル	1人世帯(若年層)	30.3	5.8%	1.8	21.5	
		1人世帯(若年層以外)	30.7	25.1%	7.7		
		2人世帯	19.1	27.1%	5.2		
		3人世帯	19.7	21.2%	4.2		
		4人以上世帯	13.0	20.9%	2.7		
	びん	1人世帯(若年層)	373.5	5.8%	21.7	73.5	252.4
		1人世帯(若年層以外)	66.0	25.1%	16.5		
		2人世帯	74.4	27.1%	20.2		
		3人世帯	49.5	21.2%	10.5		
		4人以上世帯	22.3	20.9%	4.7		
	缶	1人世帯(若年層)	21.3	5.8%	1.2	20.1	
		1人世帯(若年層以外)	32.6	25.1%	8.2		
		2人世帯	22.5	27.1%	6.1		
		3人世帯	13.3	21.2%	2.8		
		4人以上世帯	8.6	20.9%	1.8		
調理器具	1人世帯(若年層)	2.2	5.8%	0.1	2.2		
	1人世帯(若年層以外)	2.2	25.1%	0.6			
	2人世帯	2.2	27.1%	0.6			
	3人世帯	2.2	21.2%	0.5			
	4人以上世帯	2.2	20.9%	0.5			
総計					623.6		

燃やさないごみ、プラスチック製容器包装及び資源は、排出原単位調査の結果と実際の回収量に乖離があるため、燃やすごみの収集実績に基づく排出原単位を補正して用いる。分別区分ごとの実績に基づく排出原単位に、燃やすごみの収集実績に基づく排出原単位に対する調査結果の比を乗じて補正した結果を表 3-4 に、分別区分別の排出原単位を表 3-5 に示す。

表 3-4 燃やさないごみ、プラスチック製容器包装、資源の排出原単位の補正

分別区分	収集実績に基づく排出原単位 [g/人日] b	排出原単位の比 c	補正した排出原単位 [g/人日] d=b×c
燃やさないごみ	23.0	0.5652	13.0
プラスチック製容器包装	8.6	0.5652	4.8
紙類	49.6	0.5652	28.0
新聞	9.9	0.5652	5.6
雑誌・その他	14.7	0.5652	8.3
段ボール	25.0	0.5652	14.1
ペットボトル	12.7	0.5652	7.2
びん	46.0	0.5652	26.0
生きびん	1.0	0.5652	0.6
雑びん	45.0	0.5652	25.4
缶	5.7	0.5652	3.2
スチール缶	3.5	0.5652	2.0
アルミ缶	2.3	0.5652	1.3
調理器具	0.129	0.5652	0.073
スチール	0.121	0.5652	0.069
アルミ	0.008	0.5652	0.004

表 3-5 分別区分別の排出原単位

分別区分		排出原単位
燃やすごみ		313.3
燃やさないごみ		13.0
プラスチック製容器包装		4.8
資源	紙類	28.0
	新聞	5.6
	雑誌・その他	8.3
	段ボール	14.1
	ペットボトル	7.2
	びん	26.0
	生きびん	0.6
	雑びん	25.4
	缶	3.2
	スチール缶	2.0
	アルミ缶	1.3
	調理器具	0.073
	スチール	0.069
	アルミ	0.004
	合計	64.6
総計	395.8	

第4章 家庭系ごみ組成分析調査

1. 調査の目的と方法

家庭から排出されるごみ・資源の組成割合を明らかにし、正しく分別している割合や資源の混入状況等を把握するため、調査地域（表4-1）の集積所から収集してきたサンプルの燃やすごみ、燃やさないごみ、プラスチック製容器包装及び資源を分類表（表4-2）のとおり資源物、可燃物、不燃物及び外袋に区分して組成分析を行った。

組成分析調査と並行して、紙おむつ、未利用食品、小型家電、有害・危険物、水銀含有物について調査した。

表4-1 調査対象地域

調査対象地域		クラスター	住居区分		収集
			戸建	集合	
日本橋	日本橋人形町2丁目	3	○	○低層	集積所・戸別
	日本橋蛸殻町1丁目	3	○		集積所・戸別
	日本橋浜町2丁目	4	○		戸別
	日本橋浜町3丁目	4	○	○低層	集積所・戸別
京橋	新川1丁目	5		○	集積所
	新川2丁目	4	○	○低層	集積所
月島	佃1丁目	4	○		集積所
	佃2丁目	4		○	集積所
	月島3丁目	4	○		集積所
	月島4丁目	4	○		集積所
	勝どき1丁目	4		○	集積所
	勝どき5丁目A(民間住宅)	4		○	集積所
	勝どき5丁目B(都営住宅)	4		○	集積所
	勝どき6丁目	4		○	集積所

表 4-2 分類表

大分類	中分類	No.	小分類	対象品目の例	非対象品目の例	容器包装リサイクル法対象品目
資源物	紙類	1	新聞(リサイクル可)	他用途に使っていない新聞紙	新聞に入る広告・チラシ→折込広告	
		2	折込広告(リサイクル可)	新聞に入る広告・チラシ	ポスト投込のチラシ→その他紙類(リサイクル可)	
		3	雑誌・本(リサイクル可)	パンフレット、カタログ(4P以上のもの)		
		4	段ボール(リサイクル可)	断面が段々になっている	ボール紙→その他紙類(リサイクル可)	○
		5	紙パック(リサイクル可)	500ml以上の牛乳・ジュースの山型の紙パック	口がプラの酒パック→容器包装紙類(リサイクル不可)	○
		6	OA用紙(リサイクル可)	コピー用紙、OA用紙	シュレッダーはその他紙類(リサイクル不可)	
		7	紙製容器包装(リサイクル可)	(紙だけの)包装紙、紙箱、紙袋、紙容器、500ml未満山型の紙パック	汚れているもの、プラ・アルミのコーティングあり→容器包装紙類(リサイクル不可)	○
		8	その他紙類(リサイクル可)	(きれいな)投げ込みのチラシ、ノート、ボール紙、封筒(窓付含む。)、はがき、名刺サイズ以上のリサイクルできる紙	汚れたもの→その他紙類(リサイクル不可)	
	びん・缶・調理器具・ペットボトル	9	生きびん	一升びん、ビールびん(大中小、スタイナーボトル)		○
		10	雑びん	一升びん以外の酒、ジュース、ジャム、化粧品(透明)のびん	不透明な化粧品、菓のびん等→その他不燃物	○
		11	飲用・食用スチール缶		一斗缶→その他金属	○
		12	飲用・食用アルミ缶		一斗缶→その他金属	○
		13	調理器具			
		14	ペットボトル(汚れなし)	「PET」表示あり、飲料、醤油	「PET」表示なし、飲料・食用以外→形のあるプラスチック製容器包装 汚れありは可燃物	○
プラスチック製容器包装	15	発泡スチロール製食品トレイ(白)(汚れなし)	スーパーなどで肉や魚、野菜がのっているトレイで白色のもの	納豆パック→その他形のあるプラスチック製容器包装 汚れありは可燃物	○	
	16	発泡スチロール製食品トレイ(柄)(汚れなし)	スーパーなどで肉や魚、野菜がのっているトレイで柄の入っているもの	汚れありは可燃物	○	
	17	レジ袋(使用)(※2)(汚れなし)	ごみを入れる小袋として使用したもの	汚れありは可燃物	○	
	18	レジ袋(未使用)(汚れなし)		汚れありは可燃物	○	
	19	チューブ(汚れなし)	調味料、歯磨き粉	汚れありは可燃物	○	
	20	レトルト袋(汚れなし)		汚れありは可燃物	○	
	21	発泡スチロール(汚れなし)	トロ箱、充てん剤	汚れありは可燃物	○	
	22	その他形のあるプラスチック製容器包装(汚れなし)	シャンプーや洗剤のボトル、玉子や苺のパック、ヨーグルトやカップ麺、納豆のカップ、キャップ類、発泡スチロール以外の緩衝材	汚れありは可燃物	○	
その他資源物	23	フィルム状のプラスチック製容器包装(汚れなし)	菓子袋、ラップなど形のないもの	汚れありは可燃物	○	
	24	布類(リサイクル可)	衣類、タオル、寝具などで形のあるもの	ストッキング、裁断した布、ぬいぐるみ、カーテン、絨毯、毛布、座布団などはその他可燃物		
	25	乾電池(一次電池)	筒型			
	26	蛍光灯		電球はその他不燃物		
可燃物	生ごみ	28	生ごみ(未利用食品)	賞味期限切れ、未開封、開封残り		
		29	生ごみ(その他)			
	紙くず	30	紙製容器包装(リサイクル不可)	カップ麺の紙容器・フタ、紙トレイ、紙カップ、200mlなどの四角い紙パック、口がプラの酒パック		○
		31	その他紙類(リサイクル不可)	カーボン紙、紙くず、ちり紙、カーボン紙、ワックス加工紙、防水加工紙、感熱紙、油紙、金紙、銀紙、ビニールコート紙、名刺サイズ未満の紙		
	その他可燃物	32	紙おむつ			
		33	木・草類	割り箸、竹串、コルク、庭木・落ち葉・草、生花		
		34	ペットボトル(汚れあり)	「PET」表示あり、飲料、醤油	「PET」表示なし、飲料・食用以外→形のあるプラスチック製容器包装 汚れなしは資源物	△
		35	発泡スチロール製食品トレイ(白)(汚れあり)	スーパーなどで肉や魚、野菜がのっているトレイで白色のもの	納豆パック→その他形のあるプラスチック製容器包装 汚れなしは資源物	△
		36	発泡スチロール製食品トレイ(柄)(汚れあり)	スーパーなどで肉や魚、野菜がのっているトレイで柄の入っているもの	汚れなしは資源物	△
		37	レジ袋(使用)(※2)(汚れあり)	ごみを入れる小袋として使用したもの	汚れなしは資源物	△
		38	レジ袋(未使用)(汚れあり)		汚れなしは資源物	△
		39	チューブ(汚れあり)	調味料、歯磨き粉	汚れなしは資源物	△
		40	レトルト袋(汚れあり)		汚れなしは資源物	△
		41	発泡スチロール(汚れあり)	トロ箱、充てん剤	汚れなしは資源物	△
		42	その他形のあるプラスチック製容器包装(汚れあり)	シャンプーや洗剤のボトル、玉子や苺のパック、ヨーグルトやカップ麺、納豆のカップ、キャップ類、発泡スチロール以外の緩衝材	汚れなしは資源物	△
		43	フィルム状のプラスチック製容器包装(汚れあり)	菓子袋、ラップなど形のないもの	汚れなしは資源物	△
		44	製品プラスチック	歯ブラシ、おもちゃ、パケツ、ビデオテープ	金属との複合物→その他不燃	
		45	ゴム・皮革類		ビニール製靴・バッグ→製品プラスチック	
不燃物	有害・危険物	47	乾電池(二次電池)	ボタン型、充電電池		
		48	エアゾール缶※1	スプレー缶		
		49	カセットボンベ※1	カセットコンロ用ガスボンベ		
		50	ライター	使い捨てライター、着火機器		
		51	その他有害・危険物	キャンプ用ボンベ、水銀体温計、医療系廃棄物		
	その他不燃物	52	その他金属	飲用・食用以外の缶、一斗缶、アルミホイール		
		53	陶磁器類	茶碗、急須、お皿	ガラス類はその他不燃物へ	
		54	小型家電類(その他)	小型家電類(10cm×25cm以内の品目)以外の小型家電類	10cm×25cm以内の品目は小型家電類(10cm×25cm以内の品目)へ	
		55	その他不燃物	飲用・食用以外のびん(透明でない化粧品、菓等)、びん以外のガラス、電球、使い捨てカイロ、土石、かさ、ねこ砂	30センチ以上の粗大ごみ→調査対象外	
		56	プラスチック袋	透明・半透明・不透明袋		
外袋	57	レジ袋			○	
	58	紙袋			○	

※1 「エアゾール缶」「カセットボンベ」：燃やすごみ・燃やさないごみ・プラスチック製容器包装として排出されたものは「不燃物」として、資源として排出されたものは「資源物」として分類する。

※2 「レジ袋(使用)」：燃やすごみと燃やさないごみで排出されたものは「可燃物」として、プラスチック製容器包装と資源で排出されたものは「資源物」として分類する。容器包装リサイクル法対象品目については、○は対象かつ資源化可能、△は対象ではあるが資源化不可能なものを指す。

2. 調査結果

(1) 燃やすごみの組成

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「その他可燃物」に含めた場合】

燃やすごみの組成は、資源物が23.6%、可燃物が74.8%、不燃物が0.7%、外袋が0.9%である。可燃物の内訳は、生ごみが30.6%、紙くずが13.6%、その他可燃物が30.6%である。

燃やすごみのうち、分別が正しくないものが混入している割合は、24.3%である。内訳は資源物23.6%、不燃物0.7%である。

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「資源物」に含めた場合】

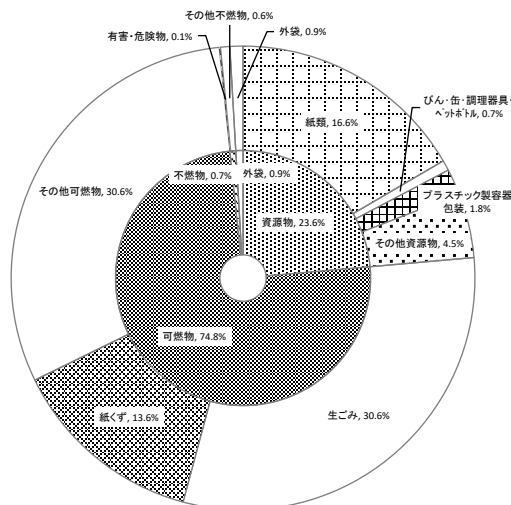
燃やすごみの組成は、資源物が36.2%、可燃物が62.2%、不燃物と外袋は上記と同じである。可燃物の内訳は、生ごみと紙くずが上記と同じ、その他可燃物が18.1%である。

分別が正しくないものが混入している割合は、36.9%である。内訳は資源物36.2%、不燃物0.7%である。

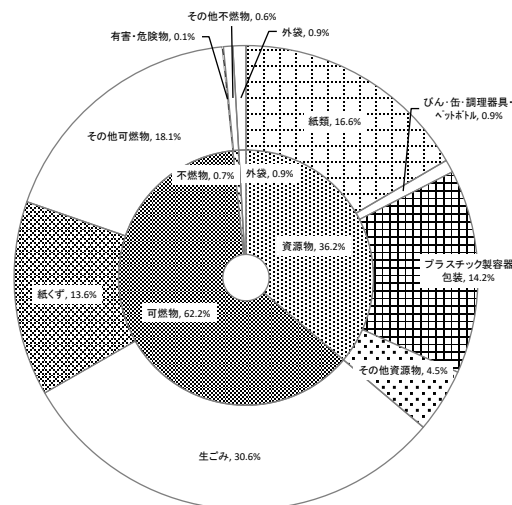
燃やすごみの組成分析結果を図4-1に示す。

図4-1 燃やすごみの組成分析結果

「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「その他可燃物」に含めた場合



「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「資源物」に含めた場合



※「レジ袋（使用）（汚れなし）」は左では「その他可燃物」、右では「資源物」に含めた。

※「エアゾール缶」及び「カセットボンベ」は「不燃物」に含めた。

(2) 燃やさないごみの組成

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「その他可燃物」に含めた場合】

燃やさないごみの組成は資源物が 24.6%、可燃物が 17.4%、不燃物が 57.2%、外袋が 0.8%である。不燃物の内訳は、有害・危険物が 3.6%、その他不燃物が 53.7%である。

燃やさないごみのうち、分別が正しくないものが混入している割合は、42.0%である。内訳は資源物 24.6%、可燃物 17.4%である。

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「資源物」に含めた場合】

燃やさないごみの組成は資源物が 26.0%、可燃物が 16.0%、不燃物と外袋は上記と同じである。不燃物の内訳も上記と同じである。

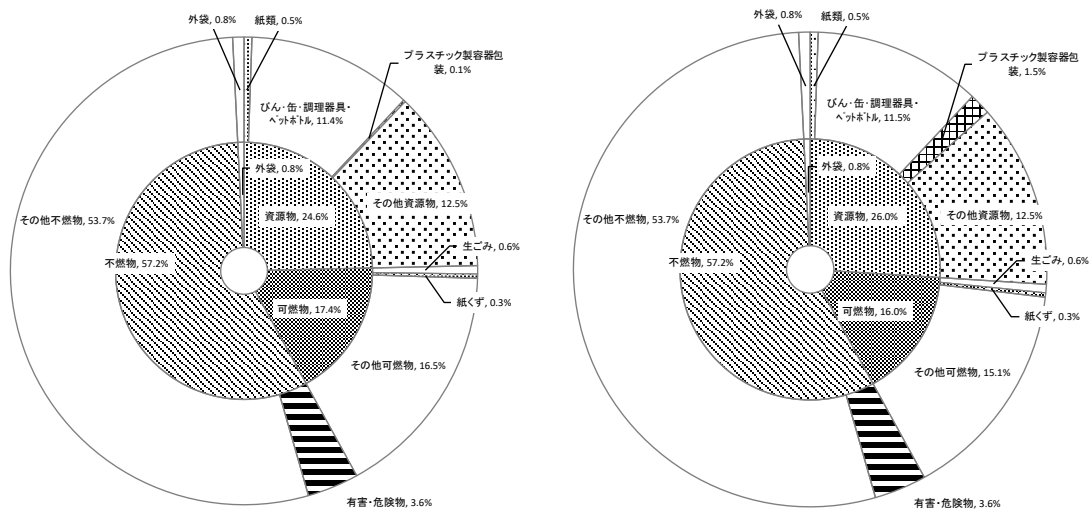
分別が正しくないものが混入している割合は、上記と同じ 42.0%である。内訳は資源物 26.0%、可燃物 16.0%である。

燃やさないごみの組成分析結果を図 4-2 に示す。

図 4-2 燃やさないごみの組成分析結果

「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「その他可燃物」に含めた場合

「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「資源物」に含めた場合



※「レジ袋（使用）（汚れなし）」は左では「その他可燃物」、右では「資源物」に含めた。

※「エアゾール缶」及び「カセットボンベ」は「不燃物」に含めた。

(3) プラスチック製容器包装の組成

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「その他可燃物」に含めた場合】

プラスチック製容器包装の組成はプラスチック製容器包装が 47.1%、プラスチック製容器包装以外の資源物が 4.4%、可燃物が 45.0%、不燃物が 0.4%、外袋が 3.1%である。

分別が正しくないものが混入している割合は、49.8%である。内訳は可燃物 45.0%、不燃物 0.4%、プラスチック製容器包装以外の資源物 4.4%である。

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「資源物」に含めた場合】

プラスチック製容器包装の組成は資源物が 78.8%、可燃物が 17.7%、不燃物と外袋は上記と同じである。

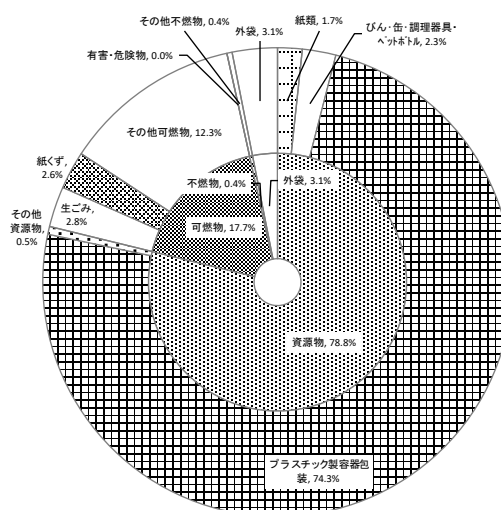
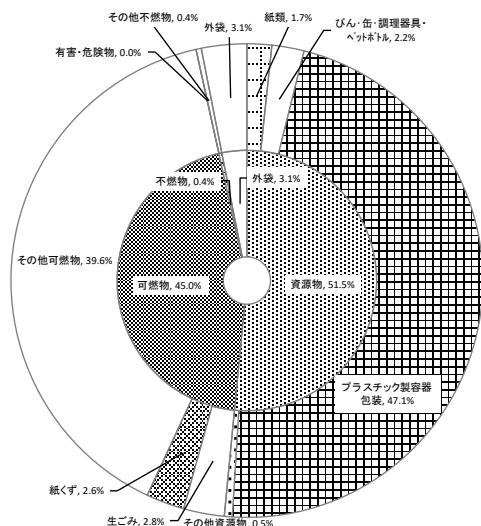
分別が正しくないものが混入している割合は、22.6%である。内訳は可燃物 17.7%、不燃物 0.4%、プラスチック製容器包装以外の資源物 4.5%である。

プラスチック製容器包装の組成分析結果を図 4-3 に示す。

図 4-3 プラスチック製容器包装の組成分析結果

「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「その他可燃物」に含めた場合

「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「資源物」に含めた場合



※「レジ袋（使用）（汚れなし）」は「資源物」に含めた。

※「エアゾール缶」及び「カセットボンベ」は「不燃物」に含めた。

(4) 資源の組成

資源は「びん」、「缶・金属類(調理器具)」、「ペットボトル」、「紙類」の4種類でそれぞれ集計した。

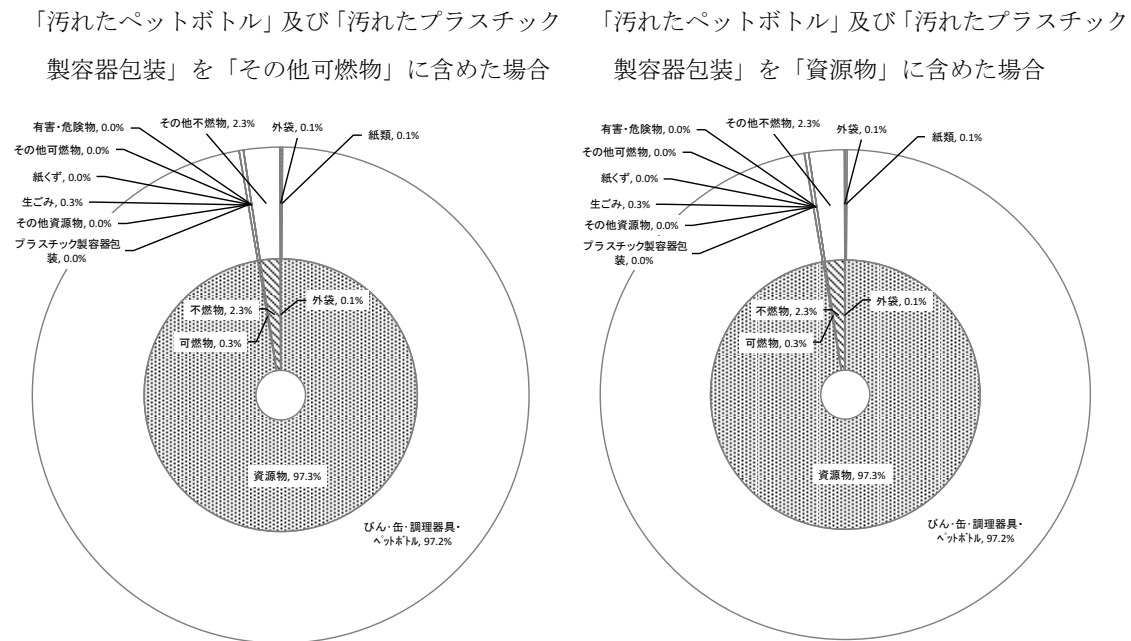
1) びん

びんの組成は資源物が97.3%、可燃物が0.3%、不燃物が2.3%、外袋が0.1%である。資源物の内訳は、紙類が0.1%、びんが97.1%、ペットボトルが0.1%である。「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」は、合算しても割合で全体の0.1%未満であり、「その他可燃物」に含めても「資源物」に含めても大きな差はない。

分別が正しくないものが混入している割合は、2.8%である(プラスチック製容器包装とその他資源物を含む)。そのうち可燃物が0.3%、不燃物2.3%、紙類0.1%、ペットボトル0.1%混入している。

びんの組成分析結果を図4-4に示す。

図4-4 資源(びん)の組成分析結果



※「レジ袋(使用)(汚れなし)」は「資源物」に含めた。

※「エアゾール缶」及び「カセットボンベ」は「資源物」に含めた(「資源(びん)」では排出なし)。

2) 缶・金属類(調理器具)

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「その他可燃物」に含めた場合】

缶・金属類(調理器具)の組成は資源物が96.3%、可燃物が1.1%、不燃物が1.1%、外袋が1.5%である。資源物の内訳は、びんが3.8%、缶(飲用・食用)が89.9%、ペットボトルが0.3%、プラスチック製容器包装が0.2%、エアゾール缶が1.8%、カセットボンベが0.3%である。なお、本調査の資源(缶・金属類(調理器具))のサンプルには、調理器具は含まれていなかった。

分別が正しくないものが混入している割合は、6.5%である(プラスチック製容器包装とその他資源物を含む)。そのうち可燃物1.1%、不燃物1.1%、プラスチック製容器包装0.2%、びん3.8%、ペットボトル0.3%混入している。

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「資源物」に含めた場合】

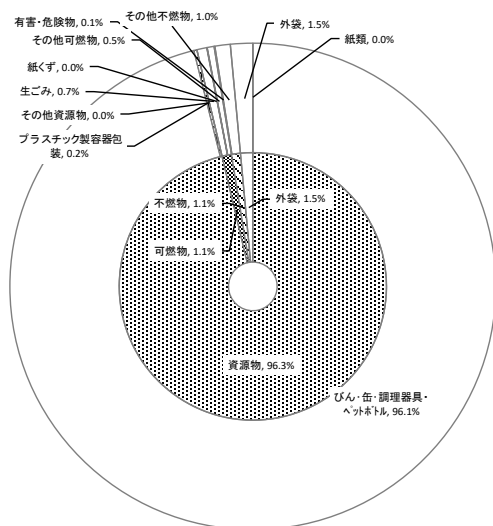
缶・金属類(調理器具)の組成は資源物が96.7%、可燃物が0.8%、不燃物と外袋は上記と同じである。資源物の内訳は、びん、缶(飲用・食用)、ペットボトル、エアゾール缶、カセットボンベが上記と同じ、プラスチック製容器包装が0.6%である。

分別が正しくないものが混入している割合は、6.5%である(プラスチック製容器包装とその他資源物を含む)。そのうち可燃物0.8%、不燃物1.1%、プラスチック製容器包装0.6%、びん3.8%、ペットボトル0.3%混入している。

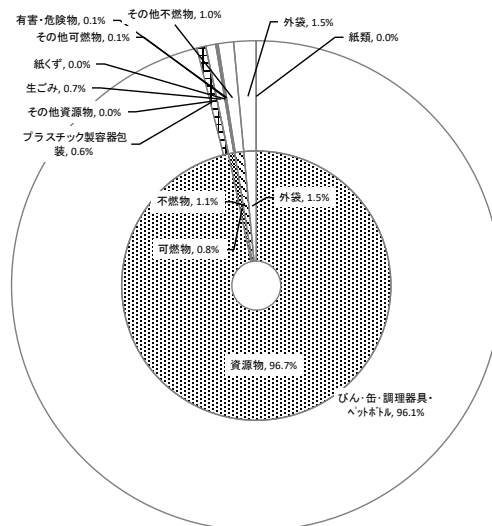
缶・金属類(調理器具)の組成分析結果を図4-5に示す。

図4-5 資源(缶・金属類(調理器具))の組成分析結果

「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「その他可燃物」に含めた場合



「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「資源物」に含めた場合



※「レジ袋(使用)(汚れなし)」は「資源物」に含めた。

※「エアゾール缶」及び「カセットボンベ」は「資源物(びん・缶・調理器具・ペットボトル)」に含めた。

3) ペットボトル

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「その他可燃物」に含めた場合】

ペットボトルの組成は資源物が96.4%、可燃物が1.3%、不燃物が0.0%、外袋が2.3%である。資源物の内訳は、びんが1.1%、缶が0.0%、ペットボトルが95.2%、プラスチック製容器包装が0.1%である。

分別が正しくないものが混入している割合は、2.5%である（プラスチック製容器包装とその他資源物を含む）。そのうち可燃物1.3%、プラスチック製容器包装0.1%、びん1.1%、缶0.0%混入している。

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「資源物」に含めた場合】

ペットボトルの組成は資源物が97.7%、可燃物が0.0%、不燃物と外袋は上記と同じである。資源物の内訳は、びんと缶は上記と同じ、ペットボトルが95.7%、プラスチック製容器包装が0.9%である。

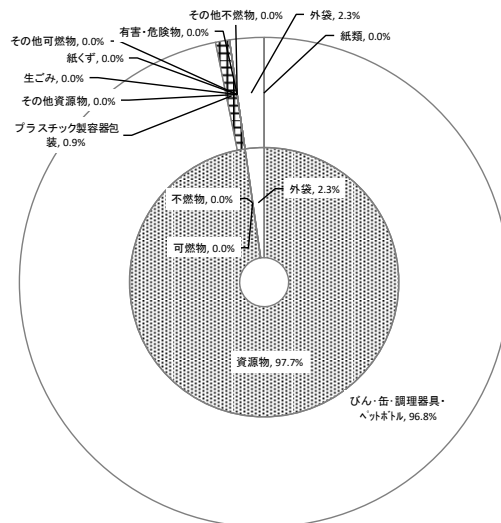
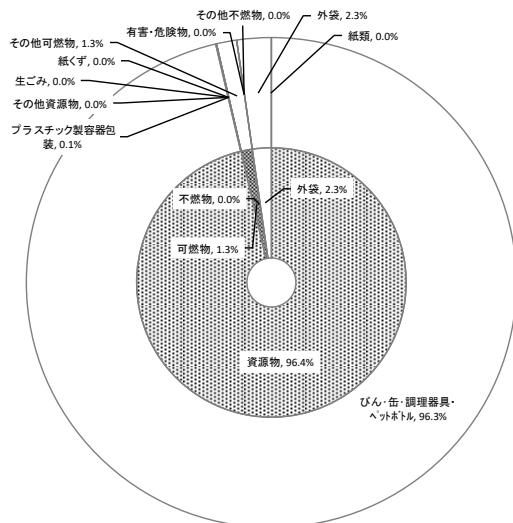
分別が正しくないものが混入している割合は、2.0%である（プラスチック製容器包装とその他資源物を含む）。そのうち可燃物が0.0%、プラスチック製容器包装が0.9%混入している。

ペットボトルの組成分析結果を図4-6に示す。

図4-6 資源（ペットボトル）の組成分析結果

「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「その他可燃物」に含めた場合

「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「資源物」に含めた場合



※「レジ袋（使用）（汚れなし）」は「資源物」に含めた。

※「エアゾール缶」及び「カセットボンベ」は「資源物」に含めた（「資源（ペットボトル）」では排出なし）。

4) 紙類

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「その他可燃物」に含めた場合】

紙類の組成は資源物が 98.7%、可燃物が 0.6(=0.63)%、不燃物が 0.0%、外袋が 0.7%である。資源物の内訳は、紙類が 98.6%、プラスチック製容器包装が 0.1(=0.07)%である。

分別が正しくないものが混入している割合は、0.7%である（プラスチック製容器包装とその他資源物を含む）。そのうち可燃物が 0.6(=0.63)%、プラスチック製容器包装が 0.1(=0.07)%混入している。

【汚れたペットボトル・汚れたプラスチック製容器包装を「資源物」に含めた場合】

紙類の組成は資源物が 98.8%、可燃物が 0.6(=0.58)%、不燃物と外袋は上記と同じである。資源物の内訳は、紙類は上記と同じ、プラスチック製容器包装が 0.1(=0.13)%である。

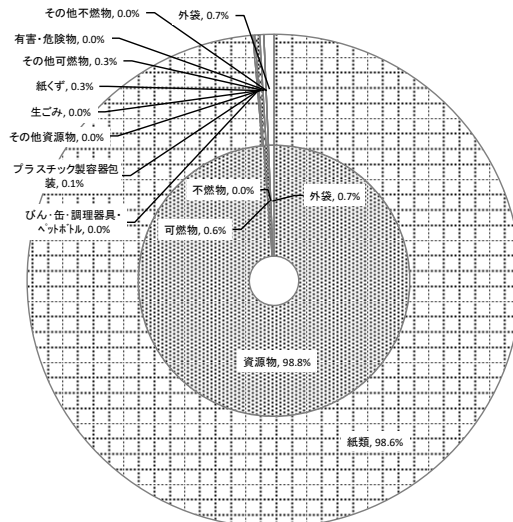
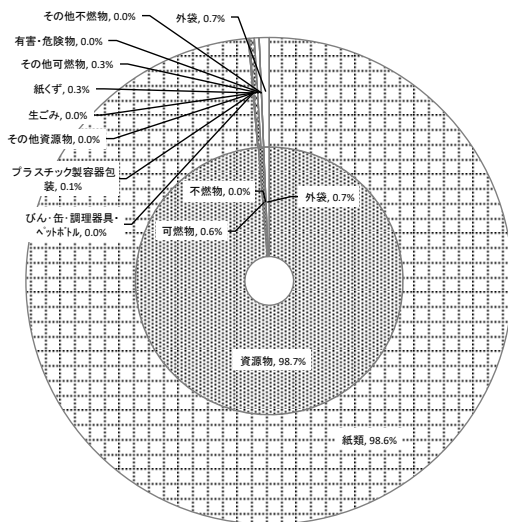
分別が正しくないものが混入している割合は、0.7%である（プラスチック製容器包装とその他資源物を含む）。そのうち可燃物が 0.6(=0.58)%、プラスチック製容器包装が 0.1(=0.13)%混入している。

紙類の組成分析結果を図 4-7 に示す。

図 4-7 資源（紙類）の組成分析結果

「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「その他可燃物」に含めた場合

「汚れたペットボトル」及び「汚れたプラスチック製容器包装」を「資源物」に含めた場合



※「レジ袋（使用）（汚れなし）」は「資源物」に含めた。

※「エアゾール缶」及び「カセットボンベ」は「資源物」に含めた（「資源（紙類）」では排出なし）。

(5) 紙おむつ

ごみ組成調査のために回収したサンプルのうち、「紙おむつ」の個数と重量を調査した。紙おむつの排出状況を表 4-3 に示す。

燃やすごみでは 321 個の紙おむつが排出され、重量では 44.58kg である。燃やさないごみでは 2 個の紙おむつが排出され、重量では 0.19kg である。なお、プラスチック製容器包装及び資源に紙おむつは排出されていない。

表 4-3 紙おむつの排出状況

ごみ・資源の種類	サンプル量 [kg]	紙おむつ		
		重量 [kg]	個数	割合 [%]
燃やすごみ	1471.81	44.58	321	3.0
燃やさないごみ	451.55	0.19	2	0.0
プラスチック製容器包装	174.59	—	—	—
資源	びん	170.19	—	—
	缶・金属類(調理器具)	39.17	—	—
	ペットボトル	54.72	—	—
	紙類	110.42	—	—

(6) 未利用食品

ごみ組成調査のために回収したサンプルに含まれる未利用食品の重量、個数、種類等を調査した。調査結果を表 4-4～表 4-7 に示す。

燃やすごみでは、4.9%の未利用食品が含まれていた。これは、燃やすごみとして排出された生ごみの 15.9%を占める。また、燃やさないごみでは 0.5%、プラスチック製容器包装では 0.3%、資源のうち、びんでは 0.3%の未利用食品が含まれていた。なお、びん以外の資源に未利用食品は含まれていなかった。

表 4-4 未利用食品の排出状況

サンプルの種類	サンプル全体		生ごみ (全体)		生ごみ (未利用食品)		
	重量 [kg]	重量 [kg]	組成割合	重量 [kg]	組成割合	生ごみに占める割合	
燃やすごみ	1471.81	450.01	30.6%	71.50	4.9%	15.9%	
燃やさないごみ	451.55	2.61	0.6%	2.20	0.5%	84.3%	
プラスチック製容器包装	174.59	4.89	2.8%	0.45	0.3%	9.2%	
資源 (びん)	170.19	0.46	0.3%	0.46	0.3%	100.0%	

表 4-5 未利用食品の種類別の排出状況

未利用食品の種類 サンプルの種類		農産加工品	野菜・果物	肉類	加工品	魚介類・水産物	水産物その他 (海藻類)	主食類 (米・パン・麺等)	粉類 (小麦粉・澱粉・そば粉等)	粉末加工食品	雑穀類	豆類・豆類加工品	調理食品・惣菜類	卵・卵加工品	外乳製品 (飲料以外)	菓子類	飲料 (液体)	飲料 (粉末・茶葉等)	調味料類	リメント他	品常備菜・サブ	その他未利用食品	合計
		燃やすごみ	個数	90	26	24	16	65	3	1	51	32	9	22	117	6	18	23	7	510			
燃やすごみ	割合	17.6%	5.1%	4.7%	3.1%	12.7%	0.6%	0.2%	10.0%	6.3%	1.8%	4.3%	22.9%	1.2%	3.5%	4.5%	1.4%	100.0%					
燃やさないごみ	個数	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	1	1	1	2	1	12					
燃やさないごみ	割合	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	16.7%	8.3%	100.0%					
プラスチック製容器包装	個数	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3	1	1	0	4	12					
プラスチック製容器包装	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	25.0%	8.3%	8.3%	0.0%	33.3%	100.0%					
資源 (びん)	個数	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2				
資源 (びん)	割合	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%				

表 4-6 未利用食品の残存量別の排出状況

サンプルの種類	残存率	50%未満		50%以上～100%未満		100%		合計	
		個数	割合	個数	割合	個数	割合	個数	割合
燃やすごみ		65	12.7%	81	15.9%	364	71.4%	510	100.0%
燃やさないごみ		6	50.0%	1	8.3%	5	41.7%	12	100.0%
プラスチック製容器包装		1	8.3%	2	16.7%	9	75.0%	12	100.0%
資源 (びん)		1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	2	100.0%

表 4-7 未利用食品の賞味期限・消費期限表示別の排出状況

表示区分 サンプルの種類	賞味期限表示				消費期限表示				日付のみ表示				表示なし		合計	
	期限後		期限前		期限後		期限前		期限後		期限前		個数	割合	個数	割合
	個数	割合	個数	割合	個数	割合	個数	割合	個数	割合	個数	割合				
燃やすごみ	168	32.9%	59	11.6%	81	15.9%	5	1.0%	29	5.7%	11	2.2%	157	30.8%	510	100.0%
燃やさないごみ	5	41.7%	4	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%	0	0.0%	2	16.7%	12	100.0%
プラスチック製容器包装	6	50.0%	5	41.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	12	100.0%
資源 (びん)	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	2	100.0%

(7) 小型家電

ごみ組成調査のために回収したサンプルのうち、小型家電の重量を調査した。調査結果は表 4-8 のとおりである。

小型家電が最も多く含まれていたのは燃やさないごみで 12.0%である。このうち小型家電（10 cm×25 cm以内の品目）が 8.6%、小型家電（その他）は 3.5%である。燃やすごみには 0.0%（四捨五入）、プラスチック製容器包装には 0.4%の小型家電が含まれていた。なお、資源に小型家電は含まれていなかった。

表 4-8 小型家電の排出状況

組成分類 サンプルの種類		サンプル量[kg]	小型家電(10 cm×25 cm以内の品目)		小型家電(その他)		小型家電(合計)		
			重量 [kg]	割合 [%]	重量 [kg]	割合 [%]	重量 [kg]	割合 [%]	
燃やすごみ		1471.81	0.39	0.0%	0	0.0%	0.39	0.0%	
燃やさないごみ		451.55	38.75	8.6%	15.65	3.5%	54.40	12.0%	
プラスチック製容器包装		174.59	0.75	0.4%	0	0.0%	0.75	0.4%	
資源	びん	374.50	170.19	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	缶・金属類 (調理器具)		39.17	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	ペットボトル		54.72	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	紙類		110.42	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

(8) 有害・危険物

ごみ組成調査のために回収したサンプルのうち、「有害・危険物」の個数、種類、重量、残存率等を調査した。調査結果を表 4-9～12 に示す。

サンプルに含まれていた 276 個の有害・危険物のうち、エアゾール缶が 175 個と最も多く、次いでライターが 48 個、カセットコンロ用ガスボンベが 12 個である。使い切って排出されている割合は、それぞれライターでは 70.8%、エアゾール缶では 76.6%、カセットコンロ用ガスボンベで 100.0%である。

表 4-9 有害・危険物の排出状況

組成分類 サンプルの種類	サンプル量[kg]	乾電池 (二次電池)		エアゾール缶		カセットコンロ用 ガスボンベ		ライター		その他の 有害・危険物		有害・危険物 (合計)			
		重量 [kg]	割合 [%]	重量 [kg]	割合 [%]	重量 [kg]	割合 [%]	重量 [kg]	割合 [%]	重量 [kg]	割合 [%]	重量 [kg]	割合 [%]		
燃やすごみ	1471.81	0.01	0.0%	0.41	0.0%	0	0.0%	0.09	0.0%	0.72	0.0%	1.23	0.1%		
燃やさないごみ	451.55	0.61	0.1%	13.15	2.9%	0.6	0.1%	1.04	0.2%	0.67	0.1%	16.07	3.6%		
プラスチック製 容器包装	174.59	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
資源	びん	170.19	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	缶・金属 類(調理 器具)	374.50	39.17	0	0.0%	0.71	1.8%	0.1	0.3%	0.02	0.1%	0	0.0%	0.83	2.1%
	ペット ボトル	54.72	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	紙類	110.42	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

表 4-10 有害・危険物の種類別の個数

組成分類 サンプルの種類	乾電池 (二次電池)	エアゾール缶	カセットコンロ用 ガスボンベ	ライター	その他の 有害・危険物	有害・危険物 (合計)
燃やすごみ	1	6	0	6	10	23
燃やさないごみ	28	157	11	41	2	239
プラスチック製 容器包装	0	0	0	0	0	0
資源(缶・金属類(調理器具))	0	12	1	1	0	14
サンプル合計	29	175	12	48	12	276

表 4-11 ライター、エアゾール缶、カセットコンロ用ガスボンベの残存率

組成分類	残存率	0%	5~ 15%	20~ 30%	35~ 50%	55~ 70%	75~ 95%	100%	不明	合計
ライター	34 70.8%	3 6.3%	0 0.0%	6 12.5%	4 8.3%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	48 100.0%
エアゾール缶	134 76.6%	16 9.1%	6 3.4%	8 4.6%	3 1.7%	2 1.1%	6 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	175 100.0%
カセットコンロ用 ガスボンベ	12 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%

表 4-12 エアゾール缶及びカセットコンロ用ガスボンベの穴あけの有無

組成分類	穴開きの有無	穴開き有	穴開き無	不明	合計
エアゾール缶	18 10.3%	157 89.7%	0 0.0%	0 0.0%	175 100.0%
カセットコンロ用 ガスボンベ	2 16.7%	10 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%

(9) 水銀含有物

水銀含有物は燃やさないごみのみから排出され、全てが蛍光管である。このうち、直管が80.0%を占め、残り20.0%が丸管もしくは電球型である。

調査結果を表4-13～14に示す。

表4-13 水銀含有物の排出状況

組成分類 サンプルの種類	サンプル量 [kg]	水銀 (合計)	
	分析後	重量 [kg]	割合 [%]
燃やさないごみ	451.55	5.1	1.1%

表4-14 蛍光管の種類ごとの個数

直管	丸管	電球型	合計
20	3	2	25
80.0%	12.0%	8.0%	100.0%

第5章 区民アンケート調査

1. 調査概要

(1) 調査対象

中央区の住民基本台帳から無作為抽出した2,000世帯を対象とした。

(2) 回収状況

発送した2,000票のうち、529票を回収した。宛先不明や転出等で返送された16票を除く1,984票に対し、有効回収率は26.7%である。

(3) 属性

回答者の年齢、性別、世帯人数、居住地域等は表5-1～4のとおりである。

表5-1 年齢

項目名	回答数	割合 (%)
30歳未満	21	4.0
30代	90	17.0
40代	128	24.2
50代	129	24.4
60歳以上	157	29.7
無回答	4	0.8
全体	529	100.0

表5-2 性別

項目名	回答数	割合 (%)
男性	213	40.3
女性	308	58.2
無回答	8	1.5
全体	529	100.0

表5-3 世帯人数

項目名	回答数	割合 (%)
1人	149	28.2
2人	178	33.6
3人	96	18.1
4人	85	16.1
5人	8	1.5
6人以上	8	1.5
無回答	5	0.9
全体	529	100.0

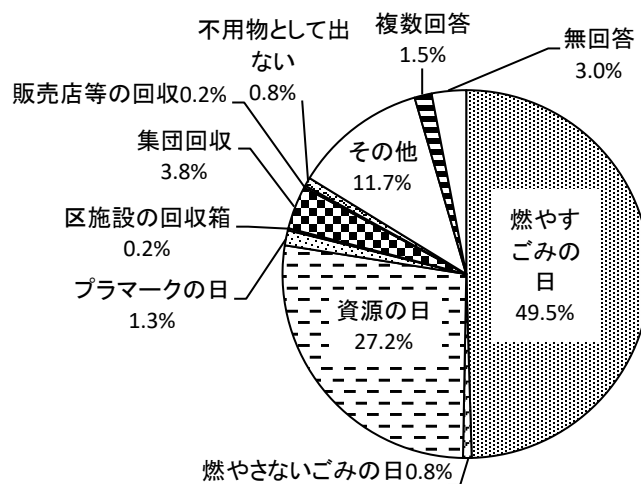
表5-4 住居形態

項目名	回答数	割合 (%)
一戸建て	56	10.6
アパート・管理人のいない団地・マンション	111	21.0
管理人のいる団地・マンション	351	66.4
その他	5	0.9
不明	2	0.4
無回答	4	0.8
全体	529	100.0

2. 調査結果

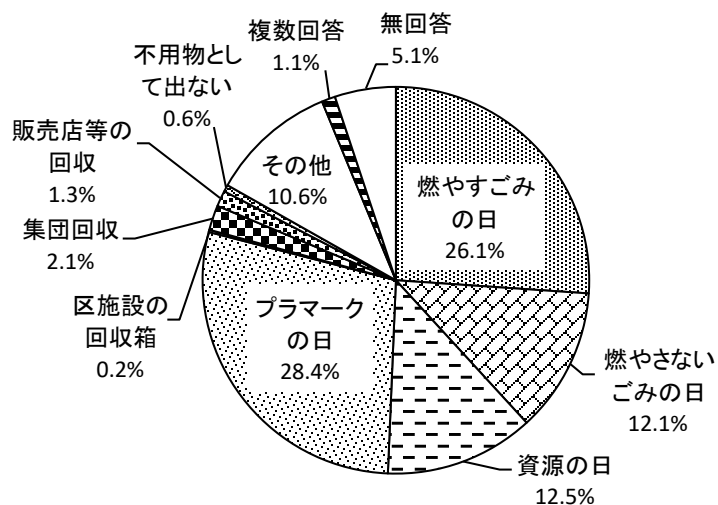
(1) 雑紙（菓子箱・包装紙など）の処分方法（単一回答）

「燃やすごみの日」が49.5%と最も多い。次いで「資源の日」が27.2%、「その他」が11.7%、「集団回収」が3.8%である。



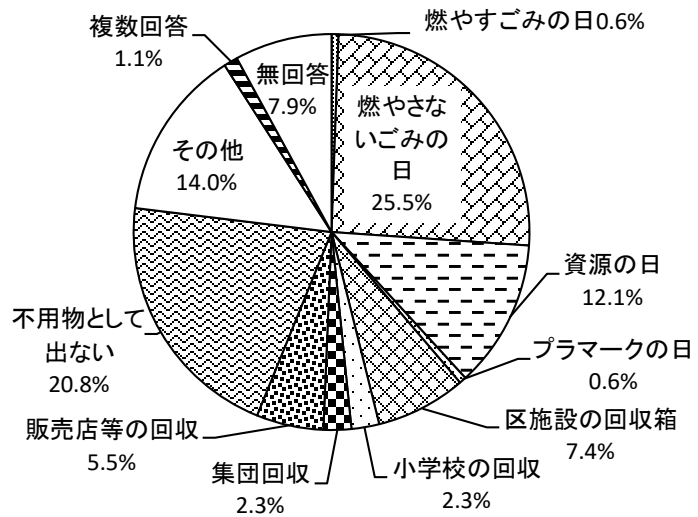
(2) プラスチック製容器包装の処分方法（単一回答）

「プラマークの日」が28.4%と最も多く、「燃やすごみの日」も26.1%と多い。次いで「資源の日」が12.5%、「燃やさないごみの日」が12.1%、「その他」が10.6%である。



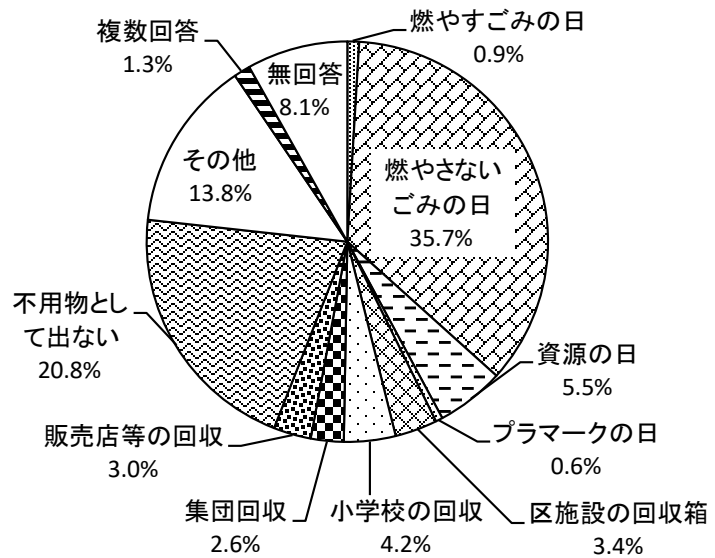
(3) 充電式電池の処分方法 (単一回答)

「燃やさないごみの日」が25.5%と最も多い。次いで「不用物として出ない」が20.8%、「その他」が14.0%、「資源の日」が12.1%である。



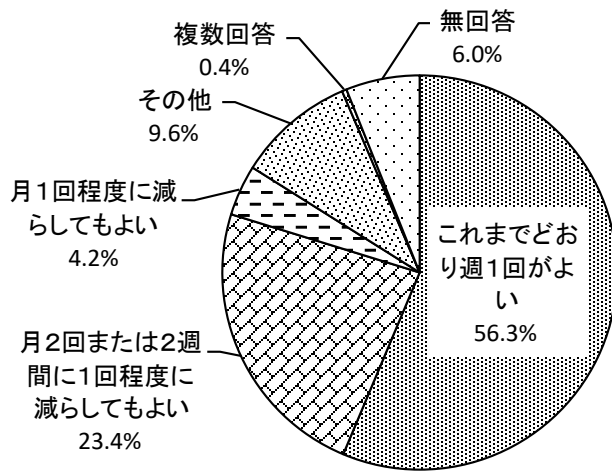
(4) 小型家電の処分方法 (単一回答)

「燃やさないごみの日」が35.7%と最も多い。次いで「不用物として出ない」が20.8%、「その他」が13.8%である。



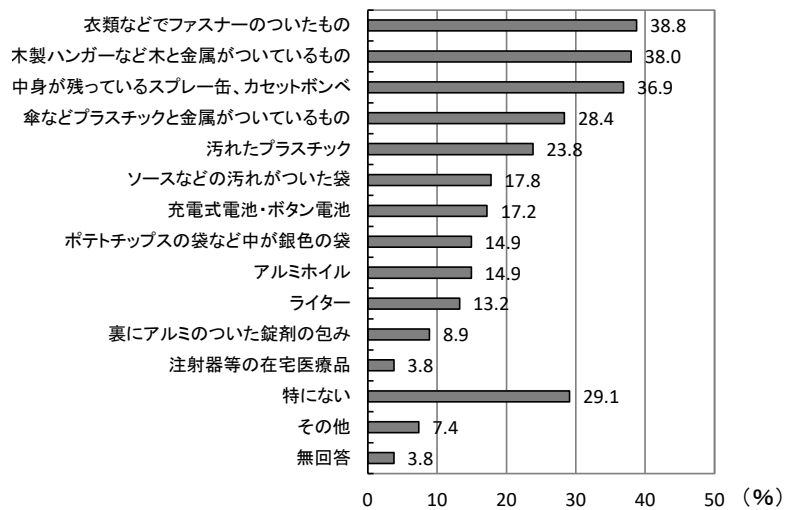
(5) 燃やさないごみの収集回数への意見（単一回答）

「これまでどおり週1回がよい」が56.3%と最も多い。次いで「月2回または2週間に1回程度に減らしてもよい」が23.4%、「その他」が9.6%、「月1回程度に減らしてもよい」が4.2%である。



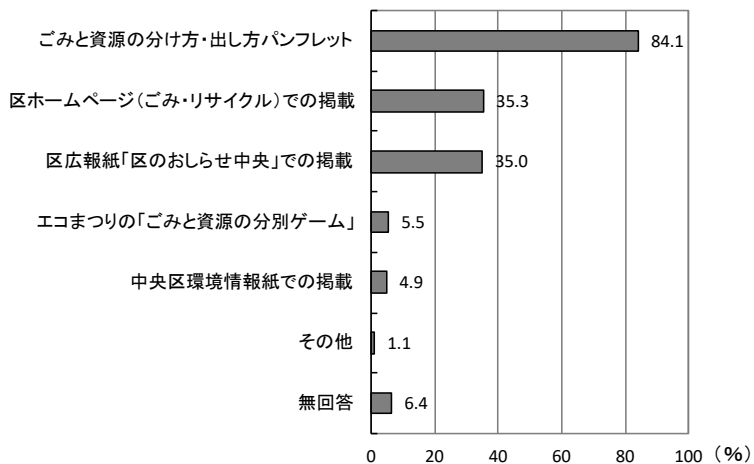
(6) 分別に困っているもの（複数回答）

「衣類などでファスナーのついたもの」38.8%、「木製ハンガーなど木と金属がついているもの」38.0%、「中身が残っているスプレー缶、カセットボンベ」36.9%、「傘などプラスチックと金属がついているもの」28.4%、「汚れたプラスチック」23.8%が2割以上である。



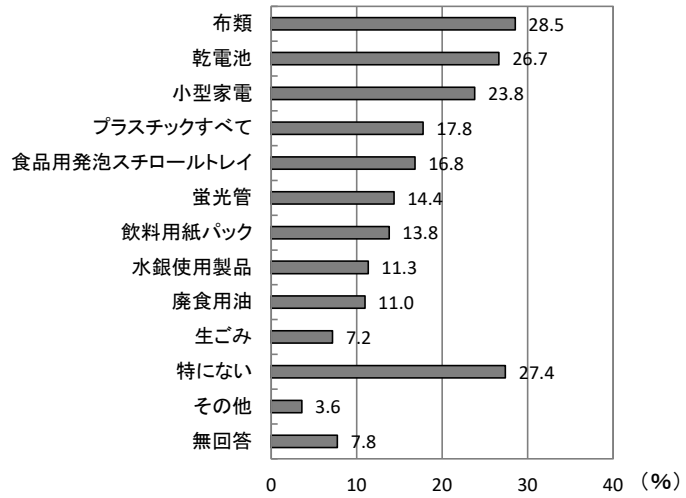
(7) 区の広報の認知（複数回答）

「ごみと資源の分け方・出し方パンフレット」が84.1%と最も多い。次いで「区ホームページ(ごみ・リサイクル)での掲載」が35.3%、「区広報紙「区のおしらせ中央」での掲載」が35.0%、「区広報紙「区のおしらせ中央」での掲載」が35.0%である。



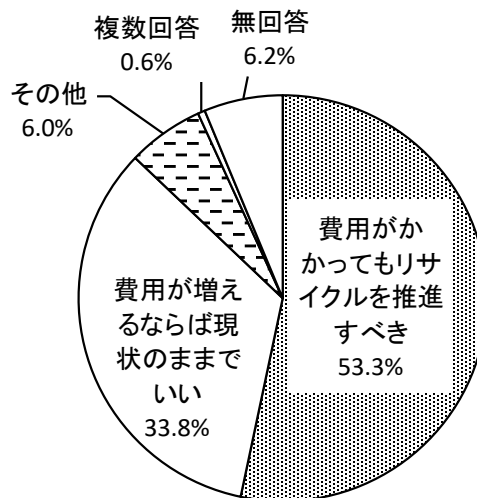
(8) 集積所で収集した方が良いと思うもの（複数回答）

「特にない」27.4%、「布類」28.5%、「乾電池」26.7%、「小型家電」23.8%が2割以上である。



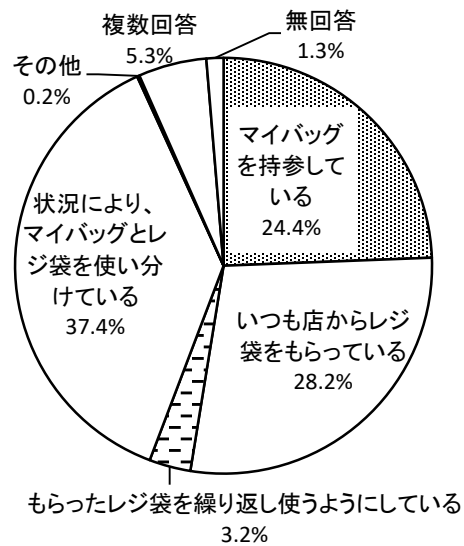
(9) リサイクルの推進と費用について（単一回答）

「費用がかかってもリサイクルを推進すべき」が53.3%、「費用が増えるならば現状のままでいい」が33.8%である。



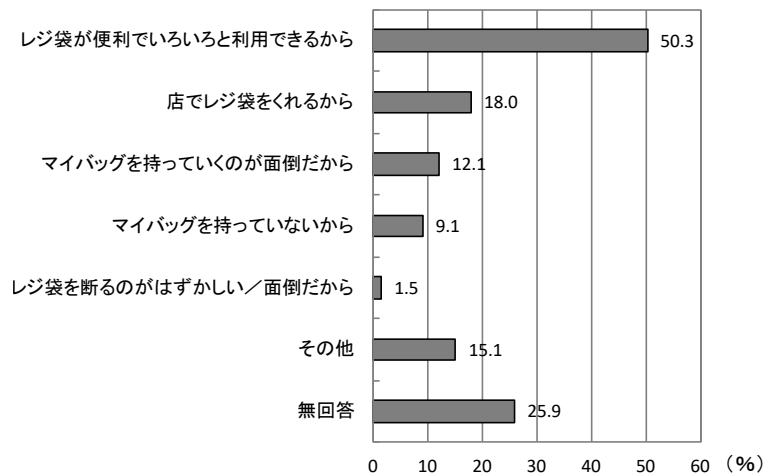
(10) 買い物時のマイバッグ・レジ袋の使用（単一回答）

「状況により、マイバッグとレジ袋を使い分けている」が37.4%と最も多い。次いで「いつも店からレジ袋をもらっている」が28.2%、「マイバッグを持参している」が24.4%である。



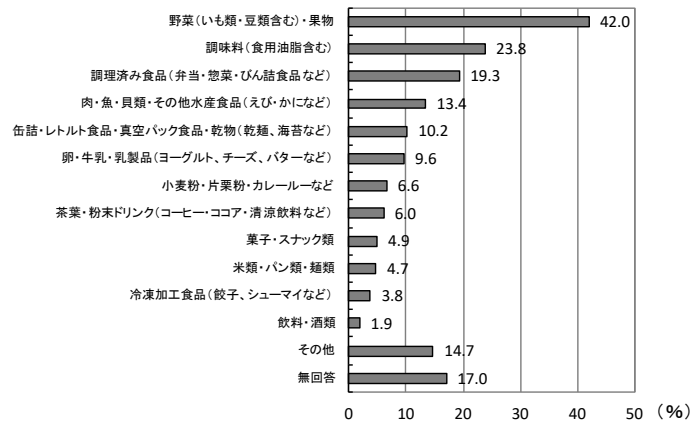
(11) レジ袋をもらう理由（複数回答）

「レジ袋が便利でいろいろと利用できるから」が50.3%と最も多い。次いで「店でレジ袋をくれるから」が18.0%、「その他」が15.1%、「マイバッグを持っていくのが面倒だから」が12.1%である。



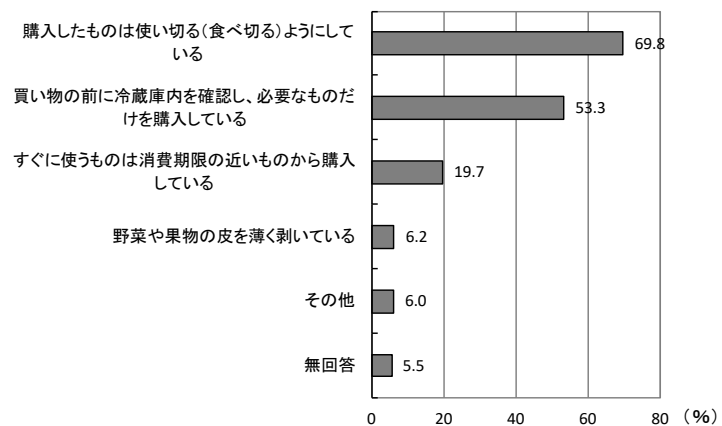
(12) 家庭で発生する食品ロス（複数回答）

家庭で発生する食品ロス*1については、「野菜・果物」42.0%、「調味料」23.8%、「調理済み食品」19.3%、「その他」が14.7%、「肉・魚・貝類・その他水産食品」13.4%、「缶詰・レトルト食品・真空パック食品・乾物」10.2%が1割以上である。



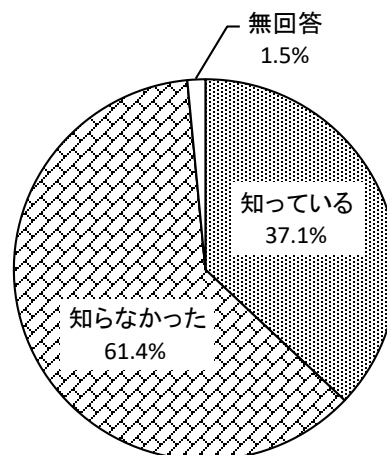
(13) 家庭での食品ロス削減の取組（複数回答）

家庭での食品ロス削減の取組については、「購入したものは使い切る（食べ切る）ようにしている」が69.8%と最も多い。次いで「買い物の前に冷蔵庫内を確認し、必要なものだけを購入している」が53.3%「すぐに使うものは消費期限の近いものから購入している」が19.7%である。



(14) フードドライブの認知（単一回答）

フードドライブ*2の認知については、「知らなかった」が61.4%と過半数を占め、「知っている」は37.1%である。

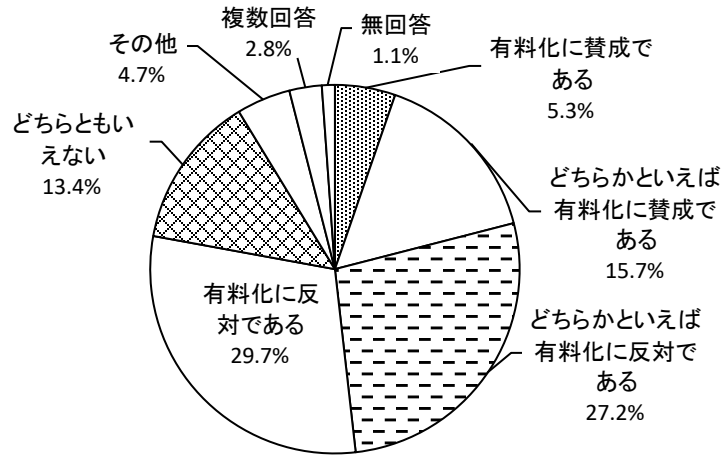


*1 食品ロス：本来食べられるはずの食品が廃棄されていること、また、その食品。

*2 フードドライブ：まだ食べられるのにさまざまな理由で処分されてしまう食品を、福祉施設等へ無料で提供する制度。

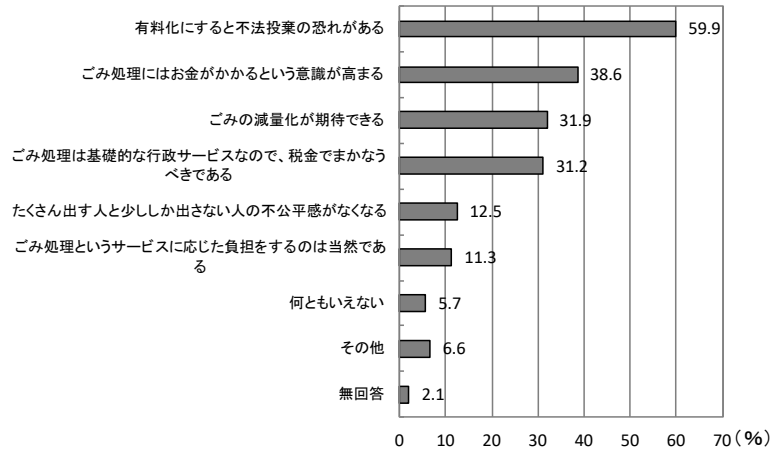
(15) 家庭ごみの有料化についての賛否（単一回答）

「有料化に反対である」29.7%と「どちらかといえば有料化に反対である」27.2%を合わせて56.9%が「反対の意向」であり、「賛成の意向」は「有料化に賛成である」5.3%と「どちらかといえば有料化に賛成である」15.7%を合わせて21.0%である。



(16) 家庭ごみの有料化に対する考え（複数回答）

「有料化にすると不法投棄の恐れがある」が59.9%と最も多い。次いで「ごみ処理にはお金がかかるという意識が高まる」が38.6%、「ごみの減量化が期待できる」が31.9%、「ごみ処理は基礎的な行政サービスなので、税金でまかなうべきである」が31.2%である。



第6章 事業所アンケート調査

1. 調査概要

(1) 調査対象

中央区内に所在する事業所から無作為抽出した5,000事業所を対象とした。

(2) 回収状況

発送した5,000票のうち、1,211票を回収した。宛先不明等で返送されたもの、事業廃止されたもの等の59票を除く4,941票に対し、有効回収率は24.5%である。

(3) 属性

回答事業所の業種及び従業員数は表6-1～2のとおりである。

表6-1 業種

業種	回答数	割合 (%)
建設業	51	4.2
製造業	78	6.4
運輸業	18	1.5
卸売業	179	14.8
小売業	113	9.3
飲食業	150	12.4
金融・保険・不動産業	91	7.5
その他	502	41.5
複数回答	16	1.3
無回答	13	1.1
全体	1,211	100.0

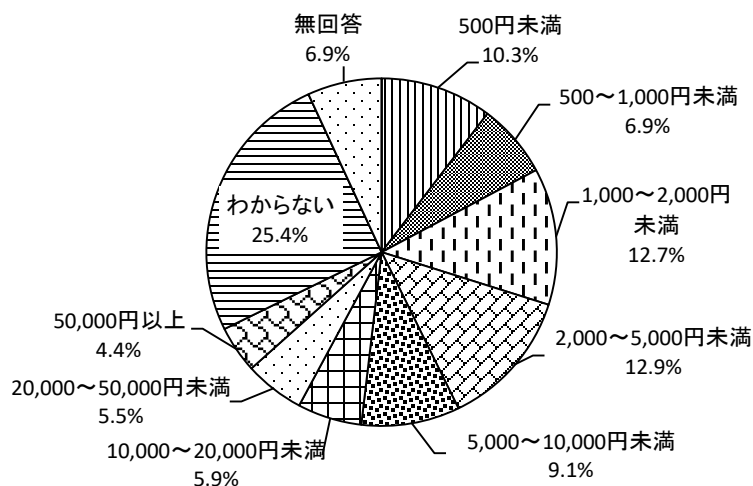
表6-2 従業員数

従業員数	回答数	割合 (%)
1～4人	443	36.6
5～9人	298	24.6
10～29人	298	24.6
30人以上	146	12.1
無回答	26	2.1
全体	1,211	100.0

2. 調査結果

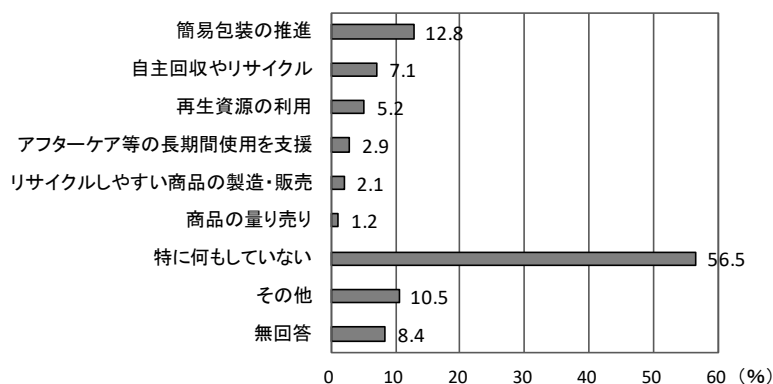
(1) 1ヶ月あたりの処理費用（単一回答）

「わからない」が25.4%と最も多く、次いで「2,000～5,000円未満」が12.9%、「1,000～2,000円未満」が12.7%、「500円未満」が10.3%である。



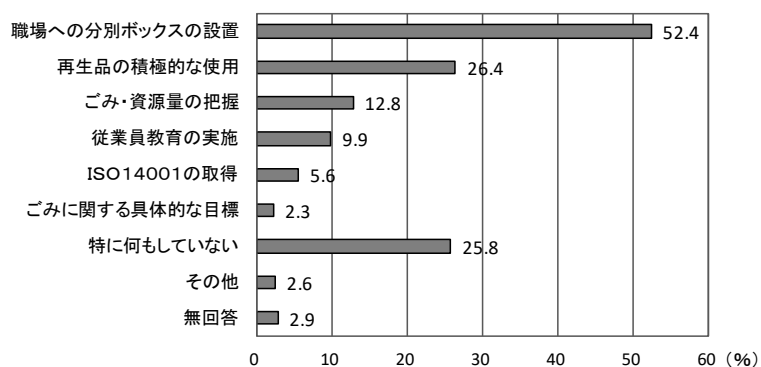
(2) 顧客に対して行なっている取組（複数回答）

「特に何もしていない」と回答した事業所が56.5%と5割以上である。実施している取組で最も多いのは「商品の過剰包装をやめたり、梱包材を簡易的なものにしていく」が12.8%である。



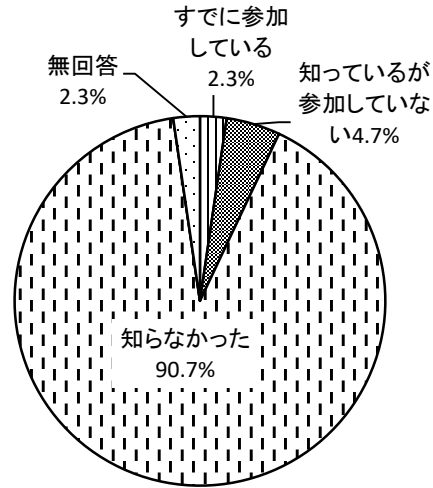
(3) 事業所で行っている取り組み（複数回答）

「職場に資源（紙、びん、缶、ペットボトルなど）の分別ボックスを設置している」が52.4%で最も多い。次いで「事務用品などに再生品を積極的に使用している」が26.4%、「特に何もしていない」が25.8%、「ごみ・資源の発生量を正確に把握し、ごみの減量に努めている」が12.8%、「ごみの減量やリサイクルの推進について、従業員教育を行っている」が9.9%である。



(4) ちゅうおうエコ・オフィス町内会の認知・参加（単一回答）

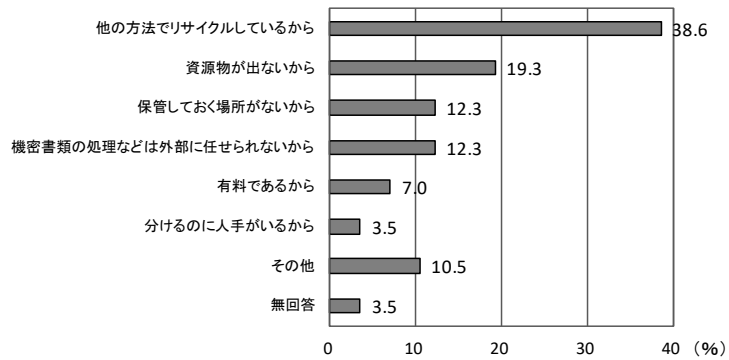
「知らなかった」が90.7%と9割以上を占めた。「知っているが参加していない」は4.7%、「すでに参加している」は2.3%である。



(5) ちゅうおうエコ・オフィス町内会に不参加の理由（複数回答）

(4)の「ちゅうおうエコ・オフィス」の認知・参加で、「知っているが参加していない」と回答した57票に対し、その理由を質問した。

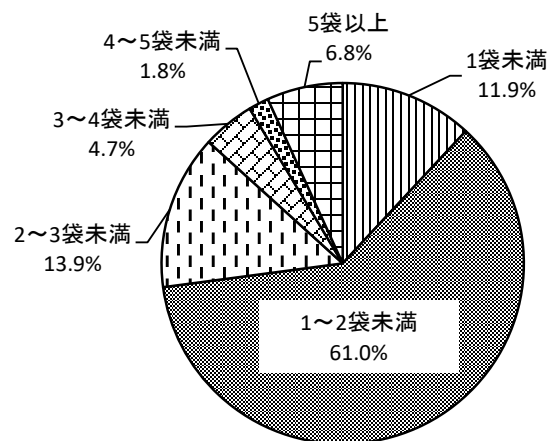
「他の方法でリサイクルしているから」が38.6%で最も多い。次いで「資源物が出ないから」19.3%、「保管しておく場所が無いから」と「機密書類の処理などは外部に任せられないから」がともに12.3%、「その他」が10.5%である。



[(6) ~ (9) については、区の収集を利用している事業者へ質問]

(6) 燃やすごみ収集1回あたりの量：45リットル袋に換算（数量回答）

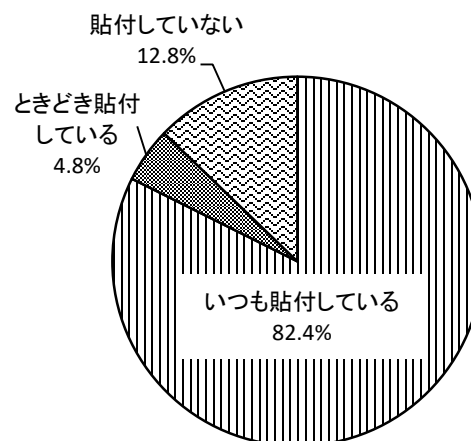
「1～2袋未満」が61.0%と6割を占めた。次いで「2～3袋未満」が13.9%、「1袋未満」が11.9%である。



(7) 有料ごみ処理券の貼付け（単一回答）

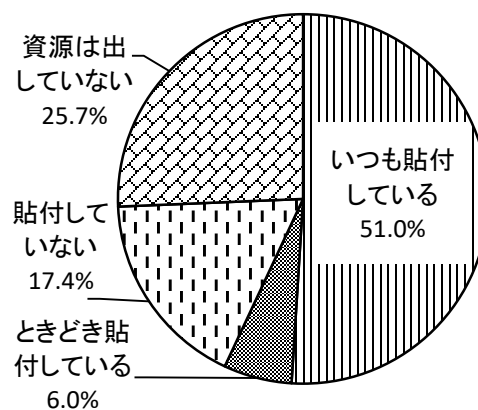
①ごみ

「いつも貼付している」が82.4%と8割以上を占めた。



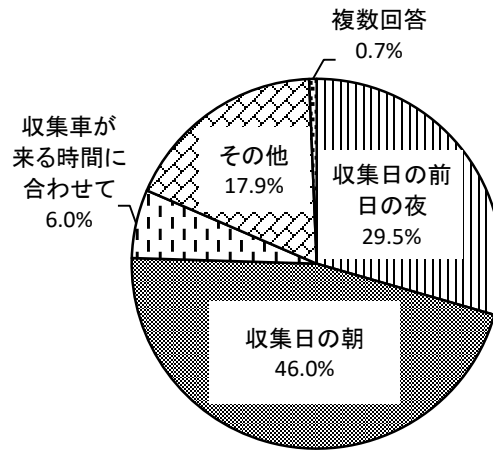
②資源

「いつも貼付している」が51.0%と5割以上を占めた。「資源は出していない」は25.7%である。



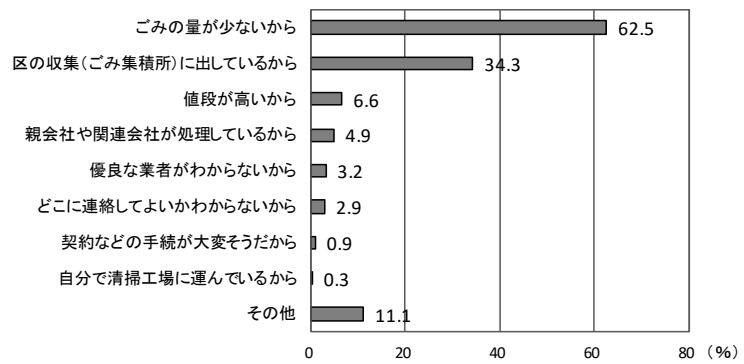
(8) ごみを出す時間 (単一回答)

「収集日の朝」が46.0%と最も多い。次いで「収集日の前日の夜」が29.5%である。



(9) 処理業者に委託していない理由 (複数回答)

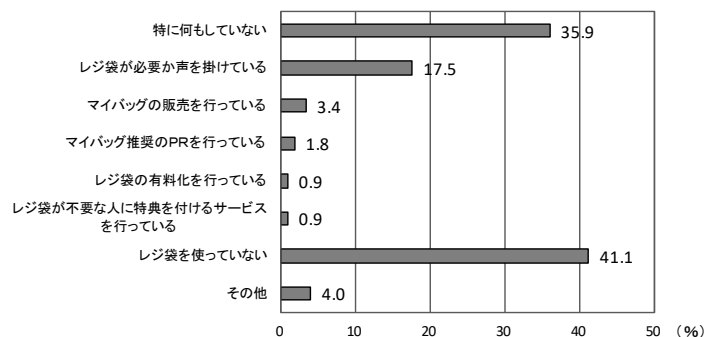
「ごみの量が少ないから」が62.5%と6割以上を占めた。次いで「区の収集 (ごみ集積所) に出しているから」が34.3%である。



[(10)・(11) は、小売店・販売店の方への質問]

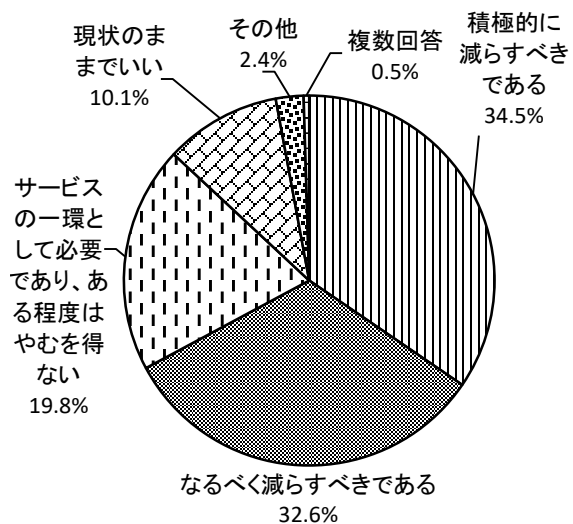
(10) レジ袋削減への取り組み (複数回答)

「レジ袋を使っていない」事業所が 41.1%で最も多く、次いで「特に何もしていない」が 35.9%、「レジ袋が必要か声を掛けている」が 17.5%である。



(11) レジ袋削減への考え (単一回答)

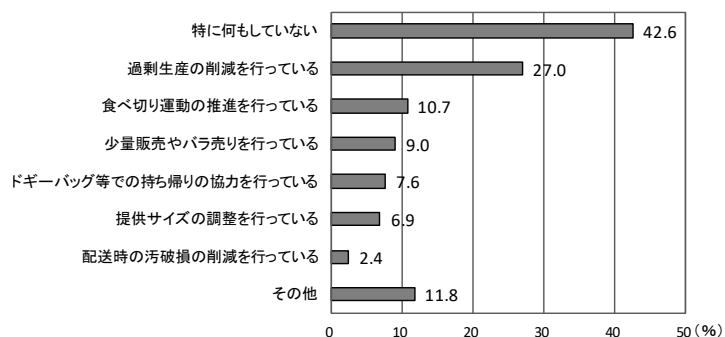
「積極的に減らすべきである」が 34.5%と最も多い。次いで「なるべく減らすべきである」が 32.6%、「サービスの一環として必要であり、ある程度はやむを得ない」が 19.8%、「現状のままでいい」が 10.1%である。



[(12)・(13)は、食品製造・卸売・小売店、飲食店の方への質問]

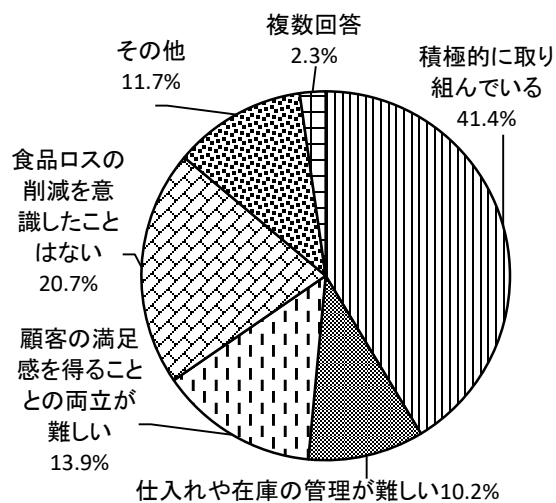
(12) 食品ロスの削減の取り組み (複数回答)

「特に何もしていない」事業所が42.6%で最も多く、次いで「過剰生産の削減を行っている」が27.0%、「食べ切り運動の推進を行っている」が10.7%である。



(13) 食品ロス削減の考え (単一回答)

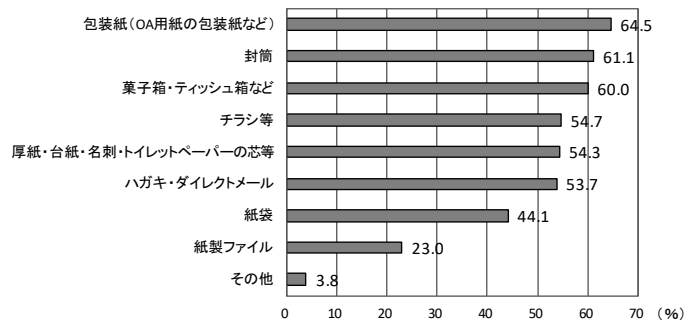
「積極的に取り組んでいる」が41.4%と最も多い。次いで「食品ロスの削減を意識したことはない」が20.7%、「顧客の満足感を得ることとの両立が難しい」が13.9%、「仕入れや在庫の管理が難しい」が10.2%である。



[(14)・(15)は、「その他リサイクル可能な紙類」または「その他リサイクル不可な紙類」が発生している事業所の方への質問]

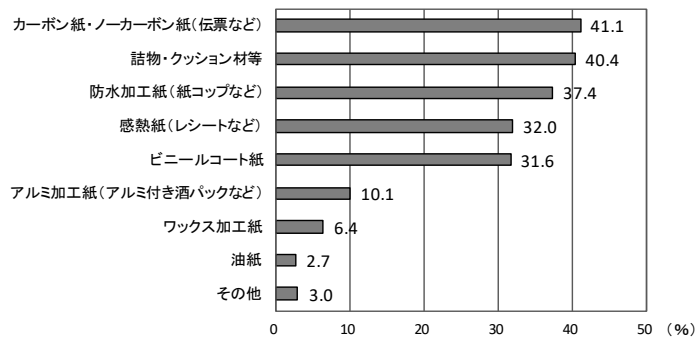
(14) 事業所で発生している「その他リサイクル可能な紙類」(複数回答)

「包装紙(OA用紙の包装紙など)」が64.5%と最も多い。次いで「封筒」が61.1%、「菓子箱・ティッシュ箱など」が60.0%となっている。



(15) 事業所で発生している「その他リサイクル不可な紙類」(単一回答)

「カーボン紙・ノーカーボン紙(伝票など)」が41.1%と最も多い。次いで「詰物・クッション材等」が40.4%、「防水加工紙(紙コップなど)」が37.4%となっている。



第7章 中央区のごみ・資源量の推計

1. 家庭系ごみ・資源の推計量

(1) 家庭系ごみ・資源の推計量

排出原単位、組成分析調査、行政データ、人口などから推計した平成31(令和元)年度の家
 庭系のごみ量は21,559.6t、資源量は9,271.7t、発生量は30,831.3tである。家庭系ご
 み・資源の品目別推計量を表7-1、家庭系ごみ・資源の推計量を表7-2に示す。

表7-1 家庭系ごみ・資源の品目別推計量

単位[t/年]

品目	ごみ量				資源量等								合計	
	区収集			小計	区回収			集 団 回 収	新 聞 販 売 店 回 収	ス ー パ ー 等 の 店 頭 回 収	自 己 処 理	デ ィ ス ポ ー ザ ー		小 計
	集積所		その他		集積所		その他							
	燃 や す ご み	燃 や さ な い ご み	粗 大 ご み		ト ポ ト ル 調 理 器 具 、 ペ ッ ト ボ ト ル	紙 類 、 び ん 、 缶	容 リ プ ラ							
新聞/折込広告	393.2	0.4		393.6	342.1	0.7		1,507.1	12.6				1,862.6	2,256.2
雑誌・雑がみ	2,347.7	2.4		2,350.1	509.2	3.3		1,385.8					1,898.3	4,248.5
段ボール	266.3	1.5		267.8	864.6	0.0		1,568.0					2,432.7	2,700.4
紙パック	160.8	0.0		160.8		1.0	9.6	1.7		9.3			21.6	182.4
生きびん	0.0	0.0		0.0	34.0	0.0		0.9					34.9	34.9
雑びん	19.0	36.0		54.9	1,556.3	0.1		13.9		3.7			1,574.0	1,628.9
スチール缶	12.5	19.0		31.4	119.8	0.1		46.3		25.2			191.3	222.8
アルミ缶	5.8	2.7		8.5	78.8	0.1		87.9		0.0			166.9	175.4
調理器具	0.0	33.0		33.0	4.5	0.0		1.1		0.0			5.5	38.5
ペットボトル	133.5	0.5		134.0	440.6	6.6	0.0	108.9					556.1	690.1
食品用発泡スチロール	43.6	0.0		43.6		5.4	1.6			3.7			10.6	54.2
プラスチック製容器包装	2,735.5	15.7		2,751.2		219.7							219.7	2,970.9
布類	843.3	0.0		843.3		0.3	66.7						67.0	910.2
電池類	5.5	22.3		27.8		0.1	9.9			2.2			12.2	39.9
蛍光管	0.0	9.0		9.0		0.0	0.9						0.9	9.9
小型家電類 (10cm×25cm以内の品目)	5.1	68.1		73.1		1.3	3.3						4.5	77.7
可燃物														
生ごみ*	5,843.5	4.6		5,848.1		8.3	2.5				14.0	139.6	164.3	6,012.3
紙くず	3,182.9	3.7		3,186.7		7.7							7.7	3,194.4
木・草類	362.0	1.7		363.7		0.6							0.6	364.3
製品プラスチック	687.2	107.5		794.6		31.7							31.7	826.4
ゴム・皮革類	132.4	1.3		133.7		0.2							0.2	134.0
その他可燃物	1,793.3	10.2		1,803.5		7.2							7.2	1,810.7
不燃物														
有害・危険物	16.0	28.2		44.2		0.0							0.0	44.2
その他不燃物	122.8	425.7		548.6		1.1							1.1	549.6
小計	19,111.8	793.3		19,905.1	3,950.0	295.3	94.5	4,721.7	12.6	44.0	14.0	139.6	9,271.7	29,176.8
粗大ごみ			1,654.5	1,654.5									0.0	1,654.5
合計	19,111.8	793.3	1,654.5	21,559.6	3,950.0	295.3	94.5	4,721.7	12.6	44.0	14.0	139.6	9,271.7	30,831.3

*拠点回収の廃食用油は生ごみとした。

表 7-2 家庭系ごみ・資源の推計量

単位[t/年]

			紙類	びん・缶等 (※1)	容リプラ (※2)	その他 資源	可燃物	不燃物	粗大ごみ	合計
ごみ量 (区収集)	燃やすごみ	A	3,168.0	170.8	2,779.1	853.8	12,001.3	138.8	0.0	19,111.8
	燃やさないごみ	B	4.3	91.0	15.7	99.4	129.0	454.0	0.0	793.3
	粗大ごみ	C	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,654.5	1,654.5
	合計	D=A+B+C	3,172.3	261.8	2,794.8	953.1	12,130.3	592.8	1,654.5	21,559.6
	ごみの組成割合		14.7%	1.2%	13.0%	4.4%	56.3%	2.7%	7.7%	100.0%
資源量	区回収	E	1,730.6	2,240.8	226.7	82.5	58.2	1.1	0.0	4,339.8
	その他	F	4,484.6	287.9	3.7	2.2	153.5	0.0	0.0	4,931.9
	合計	G=E+F	6,215.2	2,528.8	230.3	84.6	211.7	1.1	0.0	9,271.7
	資源の組成割合		67.0%	27.3%	2.5%	0.9%	2.3%	0.0%	0.0%	100.0%
発生量	区収集・回収	H=D+E	4,902.9	2,502.6	3,021.5	1,035.6	12,188.5	593.8	1,654.5	25,899.4
	その他	I=F	4,484.6	287.9	3.7	2.2	153.5	0.0	0.0	4,931.9
	合計	J=H+I	9,387.5	2,790.5	3,025.1	1,037.8	12,342.0	593.8	1,654.5	30,831.3
ごみ量・資源の組成割合			30.4%	9.1%	9.8%	3.4%	40.0%	1.9%	5.4%	100.0%

※1 びん・缶等はびん・缶・調理器具・ペットボトルのことである。

※2 容リプラはプラスチック製容器包装のことである。

(2) 区民1人1日あたりの家庭系ごみ・資源の推計量

家庭系ごみ・資源の推計量を人口で除した区民1人1日あたりの家庭系ごみ・資源の量は、ごみ量 353.5g/人日、資源量 152.0/人日、発生量 505.5g/人日と推計された(表 7-3)。

表 7-3 区民1人1日あたりの家庭系ごみ・資源の推計量

単位[g/人日]

			紙類	びん・缶等 (※1)	容リプラ (※2)	その他 資源	可燃物	不燃物	粗大ごみ	合計
ごみ量 (区収集)	燃やすごみ	A	51.9	2.8	45.6	14.0	196.8	2.3	0.0	313.3
	燃やさないごみ	B	0.1	1.5	0.3	1.6	2.1	7.4	0.0	13.0
	粗大ごみ	C	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.1	27.1
	合計	D=A+B+C	52.0	4.3	45.8	15.6	198.9	9.7	27.1	353.5
資源量	区回収	E	28.4	36.7	3.7	1.4	1.0	0.0	0.0	71.2
	その他	F	73.5	4.7	0.1	0.0	2.5	0.0	0.0	80.9
	合計	G=E+F	101.9	41.5	3.8	1.4	3.5	0.0	0.0	152.0
発生量	区収集・回収	H=D+E	80.4	41.0	49.5	17.0	199.8	9.7	27.1	424.6
	その他	I=F	73.5	4.7	0.1	0.0	2.5	0.0	0.0	80.9
	合計	J=H+I	153.9	45.8	49.6	17.0	202.4	9.7	27.1	505.5

※1 びん・缶等はびん・缶・調理器具・ペットボトルのことである。

※2 容リプラはプラスチック製容器包装のことである。

○中央区の人口：167,103人(外国人を含む。平成31(令和元)年10月1日現在)

2. 事業系ごみ・資源の推計量

(1) 事業系ごみ・資源の推計量

事業所アンケート調査や行政データから推計した平成31(令和元)年度の事業系ごみ・資源の量はごみ量86,730.7t、資源量131,845.9t、合計218,576.6tである。事業系ごみ・資源の品目別推計量表7-4、事業系ごみ・資源の推計量を表7-5に示す。

表7-4 事業系ごみ・資源の品目別推計量

単位[t/年]

品目	ごみ量				小計	区回収 (集積所)		販売店の店頭回収・仕入先返却	資源化等				小計	合計	
	区収集 (集積所)		持込みごみ			紙類・びん・缶・ペットボトル	プラスチック製容器包装		リサイクル業者などが回収	自社でリサイクル業者に搬入	自社処理	その他			
	燃やすごみ	燃やさないごみ	燃やすごみ	燃やさないごみ											全体
新聞・折込広告	330.2	3.0	4,079.5	0.0	4,412.7	199.9	0.0	420.7	2,524.0	(0.04)	631.0	771.2	4,837.6	9,384.4	13,797.1
雑誌類	188.7	1.9	2,700.2	0.0	2,890.9	129.2	0.0	181.3	1,677.1	(0.16)*	453.3	317.3	3,082.2	5,840.3	8,731.2
段ボール類	352.5	0.0	7,624.5	0.0	7,977.1	682.7	0.0	695.4	5,364.4	-	993.4	1,490.1	8,145.9	17,371.8	25,348.9
OA用紙・コピー用紙	1,664.2	5.1	8,668.3	0.0	10,337.6	112.3	0.0	119.0	4,639.1	(0.03)	1,189.5	1,903.2	8,088.7	16,051.8	26,389.4
その他リサイクル可能な紙類	1,229.7	4.3	6,346.5	0.0	7,580.5	97.6	0.0	167.6	2,716.4	-	603.6	1,074.2	6,245.3	10,904.7	18,485.2
ガラスびん	36.1	106.5	0.0	195.3	337.9	1,345.3	0.0	1,016.9	894.9	-	81.4	325.4	2,603.3	6,267.2	6,605.1
缶	17.0	55.3	0.0	119.1	191.4	147.1	0.0	429.2	564.7	-	45.2	180.7	1,490.9	2,857.8	3,049.2
ペットボトル	109.5	46.5	0.0	236.1	392.1	331.0	0.0	963.1	1,083.5	-	120.4	280.9	3,130.1	5,909.0	6,301.1
発泡スチロール	72.9	15.1	0.0	61.8	149.8	0.0	53.7	112.4	154.6	-	14.1	84.3	815.2	1,234.3	1,384.1
その他プラスチック	185.3	52.6	0.0	153.0	391.0	0.0	173.2	26.6	319.5	-	26.6	213.0	1,677.4	2,436.3	2,827.3
生ごみ	7,576.5	49.5	26,928.7	0.0	34,554.7	0.0	0.0	0.0	2,689.0	-	384.1	3,073.1	23,816.5	29,962.7	64,517.3
廃食用油	182.6	14.4	3,119.7	0.0	3,316.6	0.0	0.0	0.0	1,226.2	-	111.5	445.9	4,013.1	5,796.7	9,113.3
その他の可燃物	2,363.6	29.7	11,486.0	0.0	13,879.2	0.0	0.0	200.2	1,477.9	-	338.5	1,525.4	11,798.4	15,340.3	29,219.6
その他の不燃物	21.2	187.0	0.0	111.1	319.3	0.0	0.0	0.0	287.1	-	23.9	167.5	2,010.0	2,488.6	2,807.9
合計	14,330.0	571.0	70,953.4	876.3	86,730.7	3,045.2	226.9	4,332.4	25,618.3	(0.229)	5,016.4	11,852.2	81,754.5	131,845.9	218,576.6

*雑誌類のエコオフィス町内会回収分には、その他の紙類が含まれる。

表 7-5 事業系ごみ・資源の推計量

単位[t/年]

			紙類	びん・缶・ ペットボトル	プラスチック	可燃物	不燃物	合計	
ごみ量	燃やすごみ	区収集	A	3,765.3	162.6	258.2	10,122.7	21.2	14,330.0
		持込ごみ	B	29,419.1	0.0	0.0	41,534.3	0.0	70,953.4
		小計	C=A+B	33,184.3	162.6	258.2	51,657.0	21.2	85,283.4
	燃やさないごみ	区収集	D	14.4	208.4	67.7	93.5	187.0	571.0
		持込ごみ	E	0.0	550.5	214.8	0.0	111.1	876.3
		小計	F=D+E	14.4	758.8	282.5	93.5	298.1	1,447.3
	合計	区収集	G=A+D	3,779.7	371.0	325.9	10,216.2	208.2	14,901.0
		持込ごみ	H=B+E	29,419.1	550.5	214.8	41,534.3	111.1	71,829.7
		小計	I=G+H	33,198.7	921.4	540.7	51,750.5	319.3	86,730.7
	ごみの組成割合			38.3%	1.1%	0.6%	59.7%	0.4%	100.0%
	資源量	区回収	J	1,221.8	1,823.4	226.9	0.0	0.0	3,272.1
		その他	K	58,331.2	13,210.6	3,443.8	51,099.7	2,488.6	128,573.8
合計		L=J+K	59,553.0	15,034.0	3,670.7	51,099.7	2,488.6	131,845.9	
資源の組成割合			45.2%	11.4%	2.8%	38.8%	1.9%	100.0%	
発生量	区収集・回収	M=G+J	5,001.5	2,194.4	552.8	10,216.2	208.2	18,173.1	
	その他	N=H+K	87,750.2	13,761.0	3,658.6	92,634.0	2,599.7	200,403.5	
	合計	O=M+N	92,751.7	15,955.4	4,211.4	102,850.2	2,807.9	218,576.6	
ごみ量・資源の組成割合			42.4%	7.3%	1.9%	47.1%	1.3%	100.0%	

(2) 従業員1人1日あたりの事業系ごみ・資源の推計量

事業系ごみ・資源の推計量から求めた従業員1人1日あたりの事業系ごみ・資源の量は、ごみ量 314.3g/人日、資源量 477.8g/人日、発生量 792.1g/人日と推計された。従業員1人1日あたりの事業系ごみ・資源の量を表7-6に示す。

表7-6 従業員1人1日あたりの事業系ごみ・資源の推計量

単位[g/人・日]

			紙類	びん・缶・ ペットボトル	プラスチック	可燃物	不燃物	合計	
ごみ量	燃やすごみ	区収集	A	13.6	0.6	0.9	36.7	0.1	51.9
		持込ごみ	B	106.6	0.0	0.0	150.5	0.0	257.1
		小計	C=A+B	120.3	0.6	0.9	187.2	0.1	309.0
	燃やさないごみ	区収集	D	0.1	0.8	0.2	0.3	0.7	2.1
		持込ごみ	E	0.0	2.0	0.8	0.0	0.4	3.2
		小計	F=D+E	0.1	2.7	1.0	0.3	1.1	5.2
	合計	区収集	G=A+D	13.7	1.3	1.2	37.0	0.8	54.0
		持込ごみ	H=B+E	106.6	2.0	0.8	150.5	0.4	260.3
		小計	I=G+H	120.3	3.3	2.0	187.5	1.2	314.3
資源量	区回収	J	4.4	6.6	0.8	0.0	0.0	11.9	
	その他	K	211.4	47.9	12.5	185.2	9.0	465.9	
	合計	L=J+K	215.8	54.5	13.3	185.2	9.0	477.8	
発生量	区収集・回収	M=G+J	18.1	8.0	2.0	37.0	0.8	65.9	
	その他	N=H+K	318.0	49.9	13.3	335.7	9.4	726.2	
	合計	O=M+N	336.1	57.8	15.3	372.7	10.2	792.1	

※中央区における従業者数の総数：756,052人（民営752,360人、民営以外（公務等）3,692人。平成26年度経済センサス基礎調査）

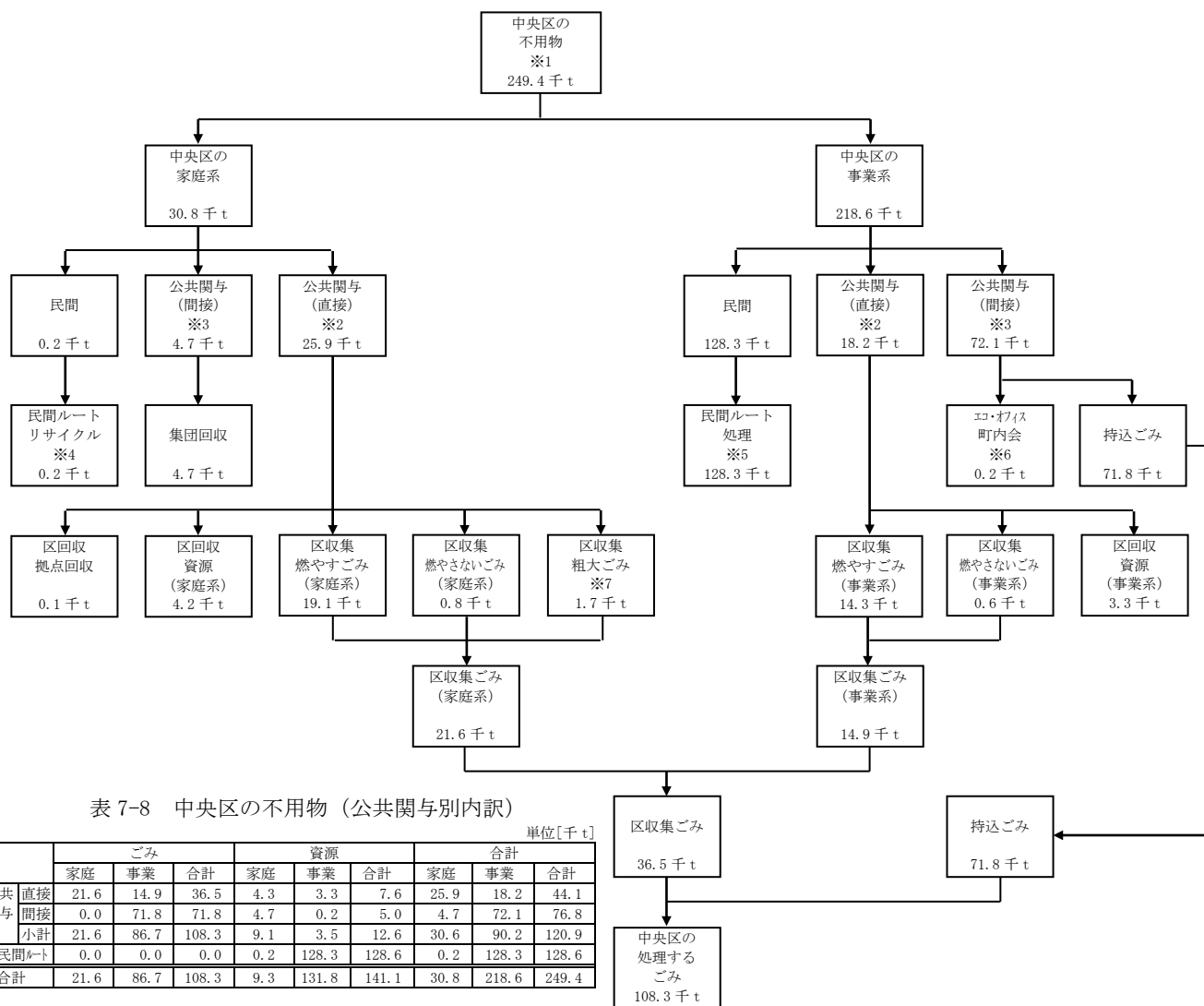
3. 中央区のごみ・資源の推計量（全体）

平成 31(令和元)年度の中央区におけるごみ・資源の推計量は、家庭系 30,831.3t、事業系 218,576.6t、合計 249,407.9t である。中央区のごみ・資源の推計量を表 7-7 に示す。また、中央区のごみ・資源の発生及び処理のフローを図 7-1 に示す。

表 7-7 中央区のごみ・資源の推計量

				単位[t/年]					
				家庭系	事業系	合計	比率		
							家庭系	事業系	
ごみ 量	燃やすごみ	区収集	A	19,111.8	14,330.0	33,441.8	57.1%	42.9%	
		持込ごみ	B	0.0	70,953.4	70,953.4	0.0%	100.0%	
		小計	C=A+B	19,111.8	85,283.4	104,395.2	18.3%	81.7%	
	燃やさないごみ	区収集	D	793.3	571.0	1,364.3	58.1%	41.9%	
		持込ごみ	E	0.0	876.3	876.3	0.0%	100.0%	
		小計	F=D+E	793.3	1,447.3	2,240.6	35.4%	64.6%	
		粗大ごみ（区収集）		G	1,654.5	0.0	1,654.5	100.0%	0.0%
	合計	区収集	H=A+D+G	21,559.6	14,901.0	36,460.6	59.1%	40.9%	
		持込ごみ	I=B+E	0.0	71,829.7	71,829.7	0.0%	100.0%	
		小計	J=H+I	21,559.6	86,730.7	108,290.3	19.9%	80.1%	
資源量	区回収		K	4,339.8	3,272.1	7,611.9	57.0%	43.0%	
	その他		L	4,931.9	128,573.8	133,505.7	3.7%	96.3%	
	合計		M=K+L	9,271.7	131,845.9	141,117.6	6.6%	93.4%	
発生量	区収集・回収		N=H+K	25,899.4	18,173.1	44,072.5	58.8%	41.2%	
	その他		O=I+L	4,931.9	200,403.5	205,335.4	2.4%	97.6%	
	合計		P=N+O	30,831.3	218,576.6	249,407.9	12.4%	87.6%	

図 7-1 中央区のごみ・資源の発生及び処理のフロー



- ※ 1 このフローは、100t 未満を四捨五入している。
- ※ 2 中央区が主体となって収集している事業。
- ※ 3 区は関わっているが、住民や事業者が主体で取り組んでいる事業。
- ※ 4 新聞販売店の回収、販売店の自主回収、自家処理、ディスプレイなど。
- ※ 5 リサイクル業者との直接契約などにより処理（下記「ちゅうおうエコ・オフィス町内会」分を除く）。
- ※ 6 「ちゅうおうエコ・オフィス町内会」のことで、オフィスから排出される紙類をリサイクルするシステム。
- ※ 7 粗大ごみの中からリサイクル可能な小型家電を選別している（平成 26 年度より）。

中央区ごみ排出実態調査報告書

令和2年3月発行

刊行物登録番号
31-100

編集・発行 中央区環境土木部中央清掃事務所
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-19-6
電 話 03-3562-1523

調査 協力 株式会社ダイナックス都市環境研究所
〒105-0003 港区西新橋 3-15-12 GG HOUSE 5階
電 話 03-5402-5355

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。